

Ⅱ. 調査の結果

II 調査の結果

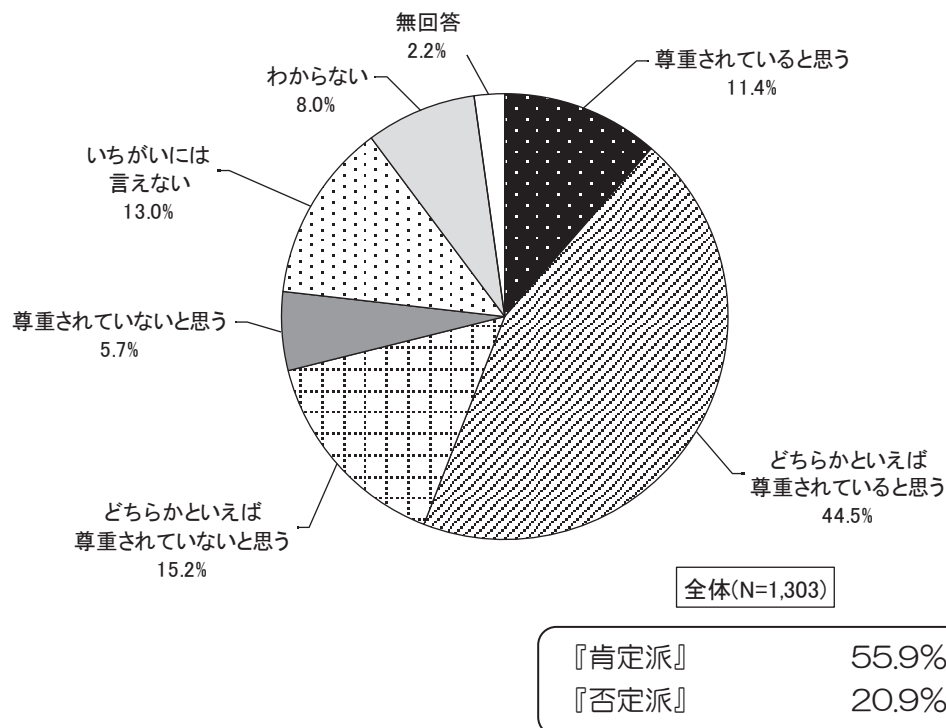
第1章 人権問題全般について

1 人権が尊重される社会

(1) 人権が尊重されている社会だと思うか

問2 今の日本は、人権が尊重されている社会だと思いますか。(○は1つだけ)

図表2-1 人権が尊重されている社会だと思うか(全体)



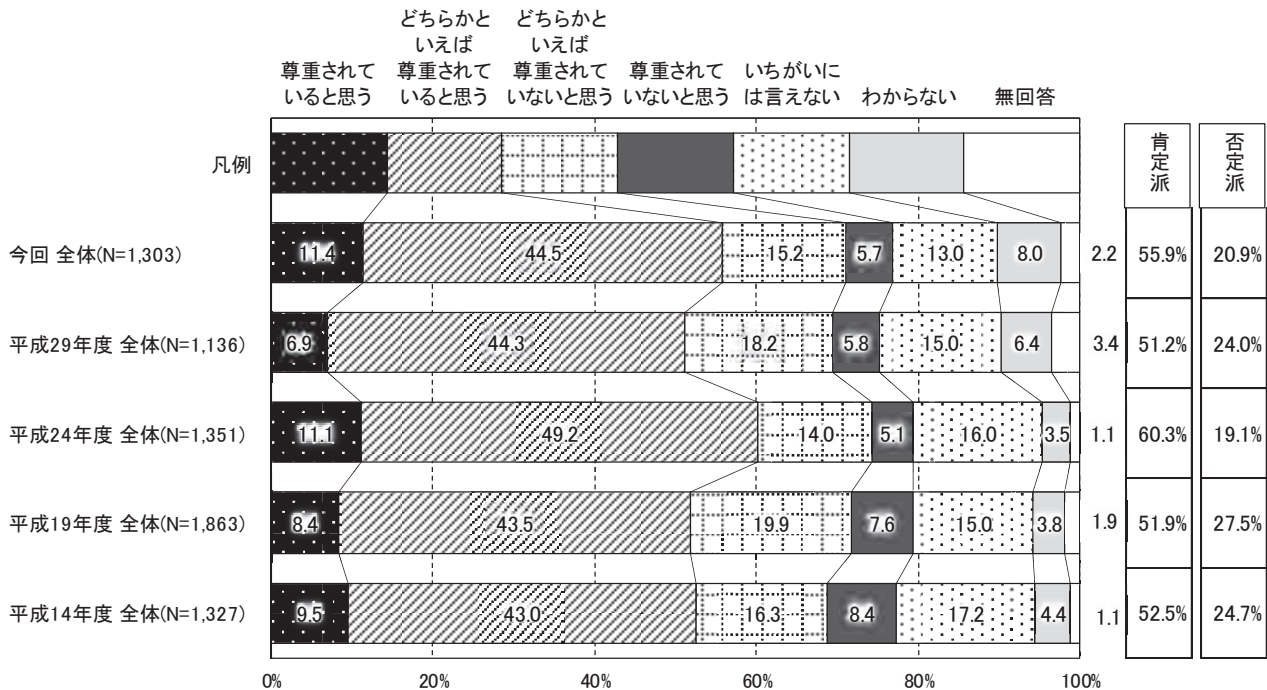
『肯定派』 = 「尊重されていると思う」「どちらかといえば尊重されていると思う」を合計した割合
『否定派』 = 「尊重されていないと思う」「どちらかといえば尊重されていないと思う」を合計した割合

人権が尊重されている社会だと思うかをたずねたところ、「尊重されていると思う」が11.4%、「どちらかといえば尊重されていると思う」が44.5%となっており、これらを合わせた『肯定派』は55.9%となっている。

一方、『否定派』は20.9%（「尊重されていないと思う」5.7%+「どちらかといえば尊重されていないと思う」15.2%）となっている。

また、「いちがいいには言えない」が13.0%、「わからない」が8.0%となっている。

図表 2-2 人権が尊重されている社会だと思うか（全体／経年比較）

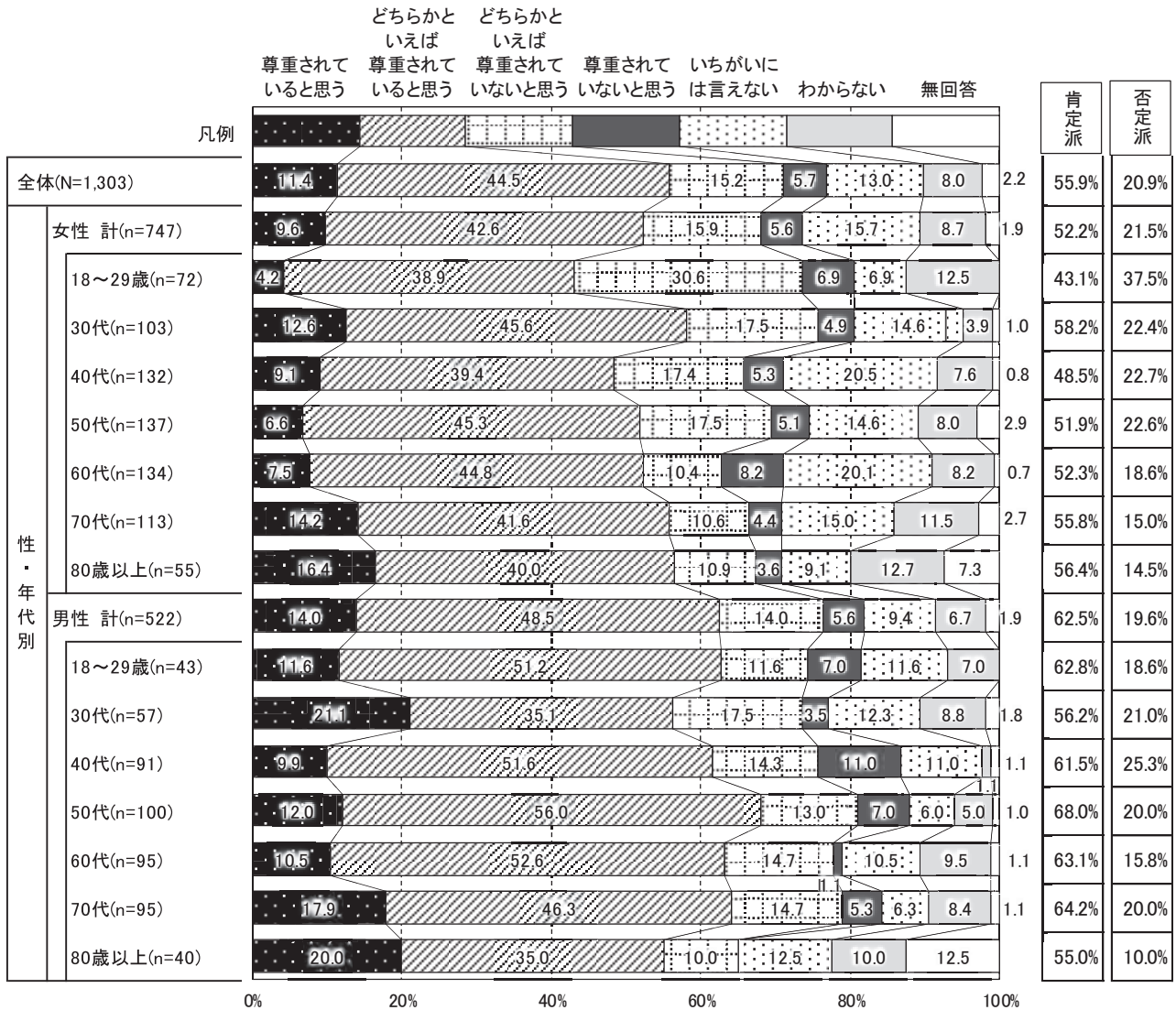


『肯定派』＝「尊重されていると思う」「どちらかといえば尊重されていると思う」を合計した割合
 『否定派』＝「尊重されていないと思う」「どちらかといえば尊重されていないと思う」を合計した割合

平成 29 年度と比較すると、「尊重されていると思う」が 4.5 ポイント、「どちらかといえば尊重されていると思う」が 0.2 ポイント増加し、これらを合わせた『肯定派』が 4.7 ポイント増加している。一方で、「尊重されていないと思う」が 0.1 ポイント、「どちらかといえば尊重されていないと思う」が 3.0 ポイント減少し、これらを合わせた『否定派』が 3.1 ポイント減少している。

過去の調査結果と比較すると、『肯定派』は平成 24 年度が 60.3%と最も高く、平成 29 年度には 51.2%に減少したが、今回調査では平成 29 年度よりも 4.7 ポイント増加し、55.9%となっている。また、『否定派』は 20.9%と、平成 24 年度の 19.1%に次いで低くなっている。

図表 2-3 人権が尊重されている社会だと思うか（性・年代別）



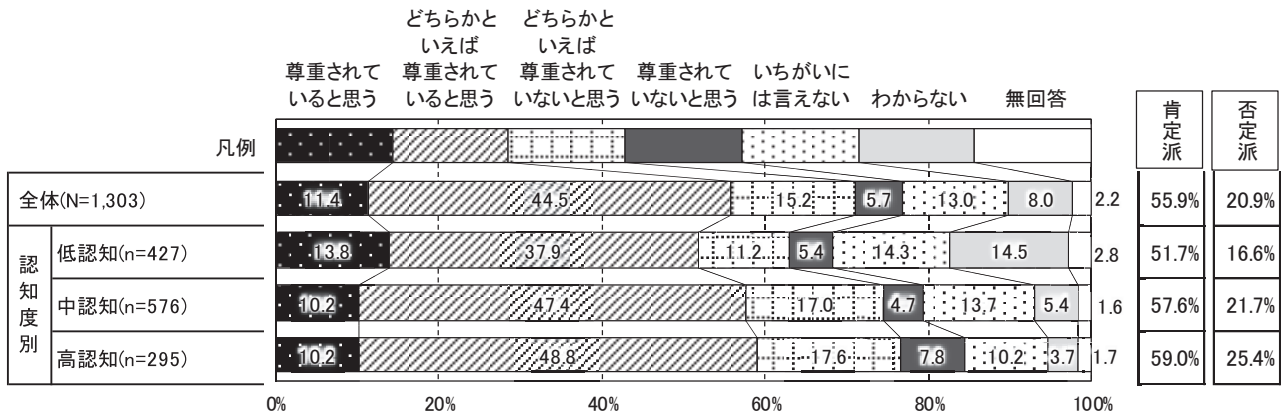
『肯定派』＝「尊重されていると思う」「どちらかといえば尊重されていると思う」を合計した割合
『否定派』＝「尊重されていないと思う」「どちらかといえば尊重されていないと思う」を合計した割合

性別にみると、男女とも『肯定派』が『否定派』よりも高くなっているが、男性では『肯定派』が62.5%であるのに対して、女性では52.2%と、男性よりも10.3ポイント低くなっている。なお、『否定派』は性別による差はみられない。

性・年代別にみると、『肯定派』の割合が18～29歳・50代で男女の差が15ポイント以上あり、性別による違いが大きくなっている。また、全体的に、女性の方が男性よりも『肯定派』が少なくなっている。

また、女性18～29歳では『否定派』が37.5%と、他の性・年代に比べて高く、全体の20.9%よりも16.6ポイント高くなっている。

図表 2-4 人権が尊重されている社会だと思うか（認知度別）



『肯定派』＝「尊重されていると思う」「どちらかといえば尊重されていると思う」を合計した割合
 『否定派』＝「尊重されていないと思う」「どちらかといえば尊重されていないと思う」を合計した割合

認知度別にみると、認知度が高くなるほど『肯定派』『否定派』ともに多くなっている。

【認知度別について】（詳細は P35～P37 を参照）

人権に関する3つの法律（障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法）に加えて、パートナーシップ宣誓制度の4制度について、「知っている」に3点、「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」に2点、「知らない」に1点のスコアを与え、合計点数で認知度ランクを定義した。

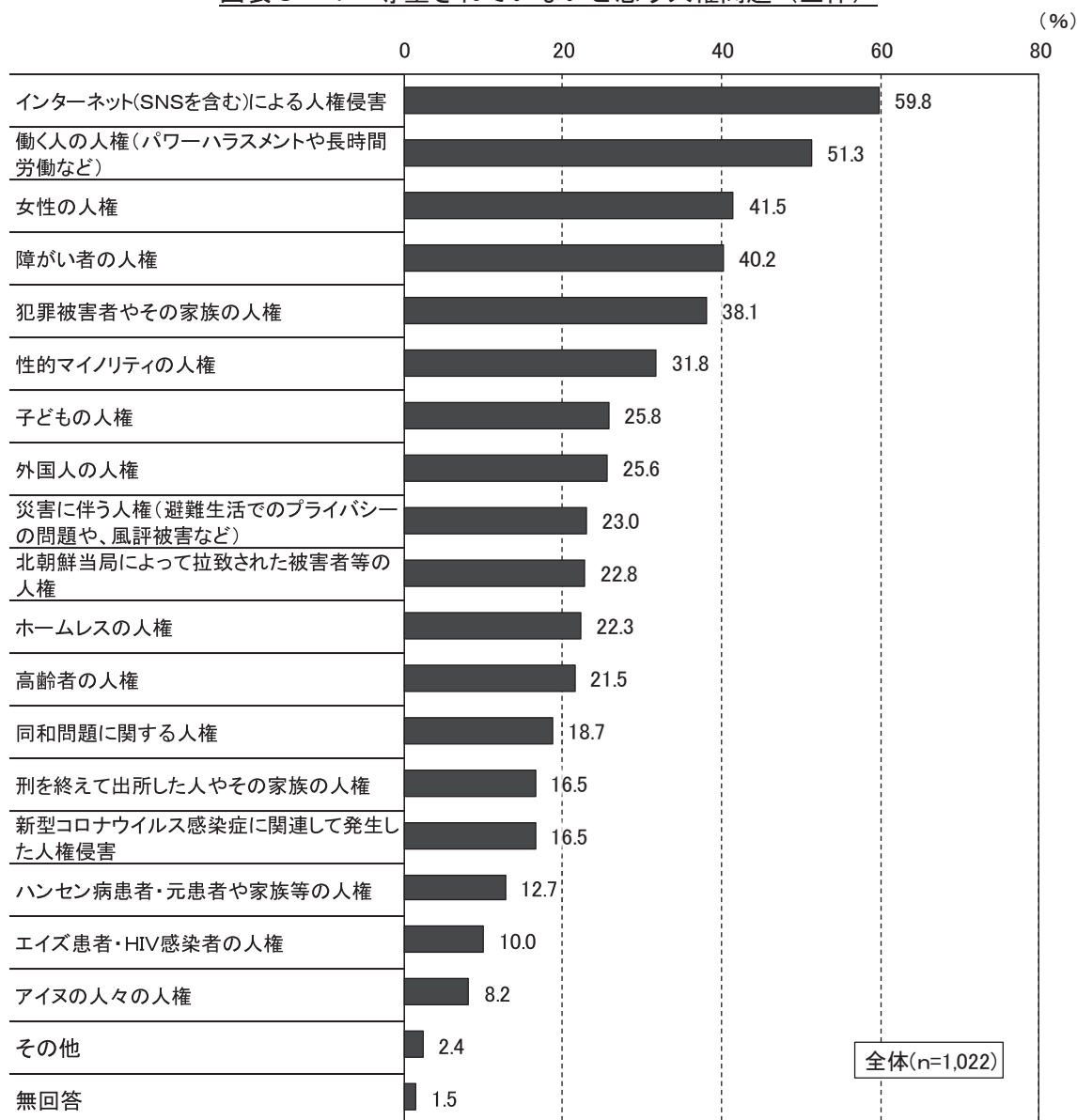
すべてに無回答の人は除き、いずれかに回答している人を対象として、合計得点を算出している。このため合計得点の最低は1点、最高は12点となっている。

認知度は、「1～5点」を低認知、「6～8点」を中認知、「9～12点」を高認知とした。

(2) 尊重されていないと思う人権問題

問3 (問2で2～5に○印をつけられた方に、お尋ねします。)
 次の中で、あなたが人権が尊重されていないと思うものをすべて選んでください。
 (あてはまるものすべてに○)

図表3-1 尊重されていないと思う人権問題 (全体)



※平成29年度調査では、問2で「どちらかといえば尊重されていないと思う」「尊重されていないと思う」「いちがいには言えない」と回答した人に対する質問であったが、今回調査では「どちらかといえば尊重されていると思う」と回答した人も対象となっている。

「どちらかといえば尊重されていると思う」「尊重されていないと思う」「どちらかといえば尊重されていないと思う」「いちがいには言えない」と答えた人に対して、尊重されていないと思う人権問題をたずねたところ、「インターネット(SNSを含む)による人権侵害」が59.8%と最も高くなっている。次いで「働く人の人権(パワーハラスメントや長時間労働など)」(51.3%)、「女性の人権」(41.5%)、「障がい者の人権」(40.2%)となっている。

図表 3-2 尊重されていないと思う人権問題（経年比較）

選択肢	今回 (n=1,022)	平成29年度 (n=443)
インターネット(SNSを含む)による人権侵害 ※1	59.8%	63.9%
働く人の人権(パワーハラスメントや長時間労働 など)	51.3%	65.9%
女性の人権	41.5%	47.9%
障がい者の人権	40.2%	55.5%
犯罪被害者やその家族の人権	38.1%	47.9%
性的マイノリティの人権	31.8%	31.4%
子どもの人権	25.8%	33.6%
外国人の人権	25.6%	22.3%
災害に伴う人権(避難生活でのプライバシーの 問題や、風評被害など)	23.0%	43.1%
北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人 権	22.8%	29.6%
ホームレスの人権	22.3%	25.1%
高齢者の人権	21.5%	35.9%
同和問題に関する人権	18.7%	24.6%
刑を終えて出所した人やその家族の人権	16.5%	19.6%
新型コロナウイルス感染症に関連して発生した 人権侵害※2	16.5%	24.8%
ハンセン病患者・元患者や家族等の人権※3	12.7%	
エイズ患者・HIV感染者の人権※3	10.0%	
アイヌの人々の人権	8.2%	10.2%
その他	2.4%	2.5%
無回答	1.5%	0.7%

※1 「(SNSを含む)」は、今回調査より追加

※2 今回調査より追加した選択肢

※3 平成29年度調査は「HIV(エイズウィルス)感染者・ハンセン病患者などの人権」

平成29年度と比較すると、多くの項目で大きく減少している。中でも、「災害に伴う人権（避難生活でのプライバシーの問題や、風評被害など）」（43.1%→23.0%：20.1ポイント減少）、「障がい者の人権」（55.5%→40.2%：15.3ポイント減少）、「働く人の人権（パワーハラスメントや長時間労働など）」（65.9%→51.3%：14.6ポイント減少）、「高齢者の人権」（35.9%→21.5%：14.4ポイント減少）は10ポイント以上減少している。

図表3-3 尊重されていないと思う人権問題（年代別）

（数値：％）

	サンプル数	インターネット（SNSを含む）による人権侵害	働く人の人権（パワーハラスメントや長時間労働など）	女性の人権	障がい者の人権	犯罪被害者やその家族の人権	性的マイノリティの人権	子どもの人権	外国人の人権	災害に伴う人権（避難生活でのプライバシーの問題や、風評被害など）	北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権	ホームレスの人権	高齢者の人権	
全体	1,022	59.8	51.3	41.5	40.2	38.1	31.8	25.8	25.6	23.0	22.8	22.3	21.5	
年代別	18～29歳	97	68.0	● 61.9	45.4	35.1	30.9	● 51.5	21.6	21.6	20.6	12.4	20.6	9.3
	30代	124	64.5	56.5	45.2	31.5	43.5	37.1	27.4	25.8	16.9	7.3	21.8	8.1
	40代	192	64.1	51.0	38.5	42.7	36.5	30.7	31.8	27.6	24.0	18.2	19.8	22.4
	50代	199	69.3	55.3	43.2	36.2	42.7	28.1	23.6	29.1	24.1	24.1	18.6	18.1
	60代	190	58.9	52.6	44.2	45.3	44.2	28.9	26.3	28.4	23.7	28.4	23.2	23.7
	70代	154	46.8	34.4	37.0	45.5	30.5	27.3	24.7	17.5	25.3	● 34.4	27.9	● 35.7
	80歳以上	60	28.3	51.7	36.7	43.3	26.7	25.0	18.3	25.0	23.3	31.7	30.0	● 31.7

	サンプル数	同和問題に関する人権	刑を終えて出所した人やその家族の人権	新型コロナウイルス感染症に関与した人権侵害	新型コロナウイルス患者や家族等の人権	ハンセン病患者・元患者	エイズ患者・HIV感染者の人権	アイヌの人々の人権	その他	無回答
全体	1,022	18.7	16.5	16.5	12.7	10.0	8.2	2.4	1.5	
年代別	18～29歳	97	12.4	15.5	15.5	9.3	7.2	4.1	4.1	2.1
	30代	124	12.9	12.1	20.2	5.6	8.1	3.2	1.6	0.8
	40代	192	16.1	13.5	19.8	11.5	10.9	10.4	3.6	1.0
	50代	199	18.6	17.1	18.1	10.6	8.0	8.5	3.5	1.0
	60代	190	21.1	17.4	12.6	18.9	12.1	10.0	1.1	1.6
	70代	154	21.4	17.5	11.7	16.9	11.0	6.5	1.3	1.9
	80歳以上	60	● 33.3	● 26.7	18.3	13.3	11.7	13.3	1.7	3.3

※ = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

年代別にみると、30代以下では「働く人の人権（パワーハラスメントや長時間労働など）」「性的マイノリティの人権」、70代以上では「高齢者の人権」「北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権」、80歳以上では「同和問題に関する人権」「刑を終えて出所した人やその家族の人権」が他の年代に比べて高くなっている。

図表3-4 尊重されていないと思う人権問題（性・年代別）

(数値：%)

	サンプル数	インターネット（SNSを含む）による人権侵害	働く人の人権（パワーハラスメントや長時間労働など）	女性の人権	障がい者の人権	犯罪被害者やその家族の人権	性的マイノリティの人権	子どもの人権	外国人の人権	災害に伴う人権（避難生活でのプライバシーの問題や、風評被害など）	北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権	ホームレスの人権	高齢者の人権	
全体	1,022	59.8	51.3	41.5	40.2	38.1	31.8	25.8	25.6	23.0	22.8	22.3	21.5	
性・年代別	女性計	596	58.6	53.0	45.8	39.8	39.1	34.4	26.5	25.3	25.2	23.7	18.1	21.3
	18～29歳	60	● 71.7	● 70.0	● 58.3	43.3	35.0	● 66.7	21.7	26.7	21.7	15.0	16.7	10.0
	30代	85	61.2	57.6	● 51.8	30.6	38.8	38.8	27.1	23.5	14.1	4.7	15.3	8.2
	40代	109	62.4	48.6	39.4	45.0	39.4	31.2	32.1	27.5	22.0	18.3	18.3	21.1
	50代	113	68.1	59.3	47.8	34.5	46.9	31.0	26.5	30.1	31.0	24.8	15.9	21.2
	60代	112	58.0	53.6	46.4	45.5	45.5	31.3	29.5	25.9	28.6	32.1	21.4	26.8
	70代	81	44.4	32.1	39.5	43.2	28.4	23.5	23.5	17.3	28.4	● 37.0	18.5	● 33.3
	80歳以上	35	22.9	54.3	37.1	31.4	22.9	25.7	14.3	22.9	28.6	● 37.1	22.9	28.6
	男性計	404	61.9	48.5	35.6	40.8	36.9	28.0	25.2	26.5	19.8	22.0	28.2	21.5
	18～29歳	35	60.0	45.7	22.9	22.9	25.7	28.6	22.9	14.3	20.0	8.6	25.7	8.6
	30代	39	● 71.8	53.8	30.8	33.3	● 53.8	33.3	28.2	30.8	23.1	12.8	● 35.9	7.7
	40代	80	66.3	53.8	37.5	38.8	32.5	30.0	31.3	27.5	25.0	17.5	21.3	23.8
	50代	82	69.5	50.0	36.6	39.0	37.8	24.4	20.7	26.8	14.6	24.4	23.2	14.6
	60代	75	62.7	50.7	41.3	45.3	42.7	24.0	21.3	33.3	17.3	24.0	26.7	17.3
70代	69	49.3	37.7	34.8	46.4	31.9	30.4	27.5	18.8	21.7	31.9	● 37.7	● 39.1	
80歳以上	23	39.1	43.5	34.8	● 60.9	30.4	26.1	21.7	30.4	13.0	26.1	● 34.8	● 39.1	

	サンプル数	権同和問題に関する人	刑やその家出の所した	生染新に人権侵害	患者やセン家族等の者・人権元	ハンセン病患者・HIV感染者の患者・HIV	エイズ患者の患者・HIV	アイヌの人々の人権	その他	無回答
全体	1,022	18.7	16.5	16.5	12.7	10.0	8.2	2.4	1.5	
性・年代別	女性計	596	16.6	16.1	17.1	12.1	8.6	9.2	2.5	0.8
	18～29歳	60	13.3	13.3	18.3	6.7	3.3	5.0	3.3	-
	30代	85	12.9	7.1	21.2	4.7	5.9	4.7	2.4	-
	40代	109	13.8	13.8	17.4	10.1	10.1	10.1	3.7	-
	50代	113	16.8	18.6	18.6	8.8	6.2	8.8	3.5	-
	60代	112	21.4	20.5	16.1	● 25.0	14.3	12.5	0.9	2.7
	70代	81	16.0	17.3	8.6	14.8	9.9	8.6	1.2	1.2
	80歳以上	35	25.7	25.7	22.9	8.6	5.7	14.3	2.9	2.9
	男性計	404	21.5	16.6	15.3	13.9	12.1	6.7	2.5	2.5
	18～29歳	35	11.4	20.0	11.4	14.3	14.3	2.9	5.7	5.7
	30代	39	12.8	23.1	17.9	7.7	12.8	-	-	2.6
	40代	80	17.5	12.5	22.5	12.5	11.3	10.0	3.8	2.5
	50代	82	20.7	15.9	17.1	13.4	11.0	8.5	3.7	2.4
	60代	75	21.3	13.3	6.7	10.7	9.3	6.7	1.3	-
70代	69	● 29.0	15.9	14.5	18.8	13.0	4.3	1.4	2.9	
80歳以上	23	● 43.5	26.1	13.0	21.7	17.4	8.7	-	4.3	

※ = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

性別にみると、男女とも「インターネット（SNSを含む）による人権侵害」（女性 58.6%、男性 61.9%）が最も高く、次いで「働く人の人権（パワーハラスメントや長時間労働など）」（女性 53.0%、男性 48.5%）となっているが、第3位は、女性では「女性の人権」（45.8%）、男性では「障がい者の人権」（40.8%）となっている。

また、女性では「女性の人権」が 45.8%と男性（35.6%）よりも 10.2 ポイント高くなっている。男性では「ホームレスの人権」が 28.2%と女性（18.1%）よりも 10.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性 18～29 歳、男性 30 代では「インターネット（SNSを含む）による人権侵害」が7割を超え、70 代以上では「高齢者の人権」が高くなっている。また、女性 30 代以下・50 代では「働く人の人権（パワーハラスメントや長時間労働など）」「女性の人権」、女性 18～29 歳では「性的マイノリティの人権」が高くなっている。

図表 3-5 尊重されていないと思う人権問題（認知度別）

(数値：%)

		サンプル数	インターネット（SNSを含む）による人権侵害	働く人の人権（パワーハラスメントや長時間労働など）	女性の人権	障がい者の人権	犯罪被害者やその家族の人権	性的マイノリティの人権	子どもの人権	外国人の人権	災害に伴う人権（避難生活でのプライバシーの問題や、風評被害など）	北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権	ホームレスの人権	高齢者の人権
全体		1,022	59.8	51.3	41.5	40.2	38.1	31.8	25.8	25.6	23.0	22.8	22.3	21.5
認知度別	低認知	294	53.4	52.0	33.3	35.4	32.3	28.2	19.7	20.1	21.1	19.7	18.7	16.0
	中認知	477	60.6	50.3	43.6	38.4	38.2	31.2	23.9	24.5	22.2	22.9	22.2	22.6
	高認知	249	66.3	52.2	46.6	49.8	45.0	37.3	● 36.9	34.5	26.5	26.5	26.9	26.1

		サンプル数	同和問題に関する人権	刑を終えて出所した人やその家族の人権	権侵害	新型コロナウイルス感染症に関連して発生した人権	ハンセン病患者・元患者や家族等の人権	エイズ患者・HIV感染者の人権	アイヌの人々の人権	その他	無回答
全体		1,022	18.7	16.5	16.5	12.7	10.0	8.2	2.4	1.5	
認知度別	低認知	294	16.0	15.3	14.6	10.5	9.9	5.8	2.4	3.1	
	中認知	477	17.8	14.7	15.3	11.7	8.8	7.1	1.9	1.0	
	高認知	249	23.3	21.7	21.3	17.3	12.4	13.3	3.6	0.4	

※ =全体の数値より+5ポイント、● =全体の数値より+10ポイント

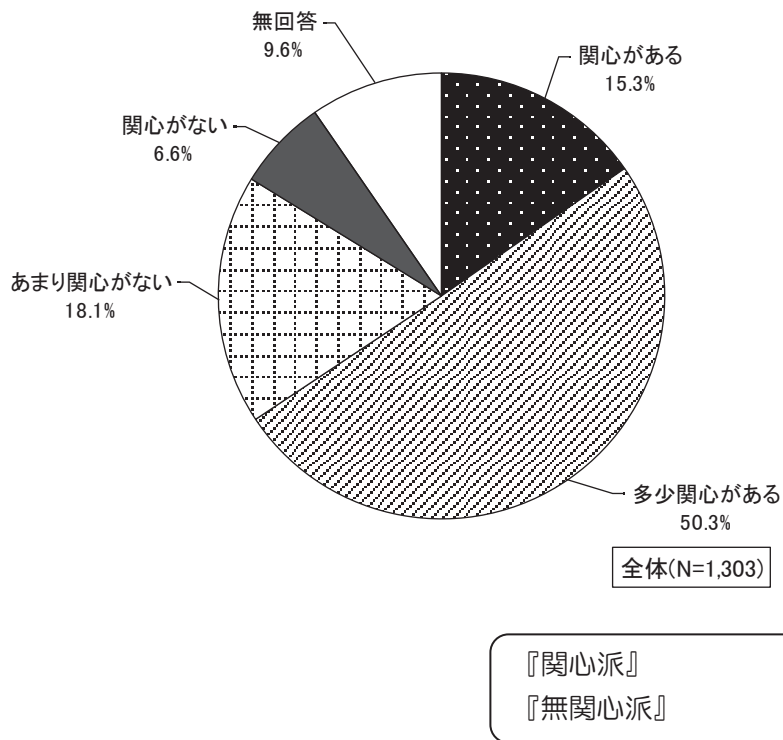
認知度別にみると、認知度が高いほど各項目の割合が高くなる傾向にある。

2 人権問題への関心

(1) 人権問題にどの程度関心を持っているか

問4 人権問題に関する意識についてお尋ねします。あなたは人権問題に、どの程度関心を持っていますか。(○は1つだけ)

図表4-1 人権問題にどの程度関心を持っているか(全体)

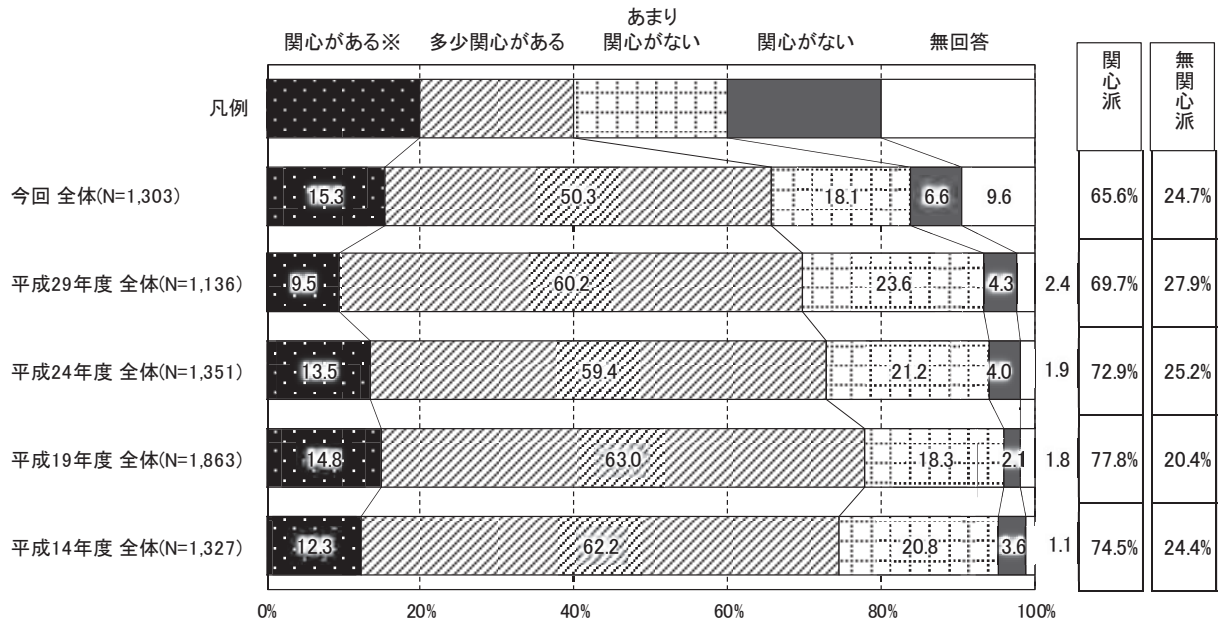


『関心派』 = 「関心がある」「多少関心がある」を合計した割合
『無関心派』 = 「関心がない」「あまり関心がない」を合計した割合

人権問題に関する意識についてたずねたところ、「関心がある」が15.3%、「多少関心がある」が50.3%となっており、これらを合わせた『関心派』は65.6%となっている。

一方、『無関心派』は24.7%（「関心がない」6.6%+「あまり関心がない」18.1%）となっている。

図表 4-2 人権問題にどの程度関心を持っているか（全体／経年比較）



※ 選択肢「関心がある」は、平成29年度以前は「非常に関心がある」

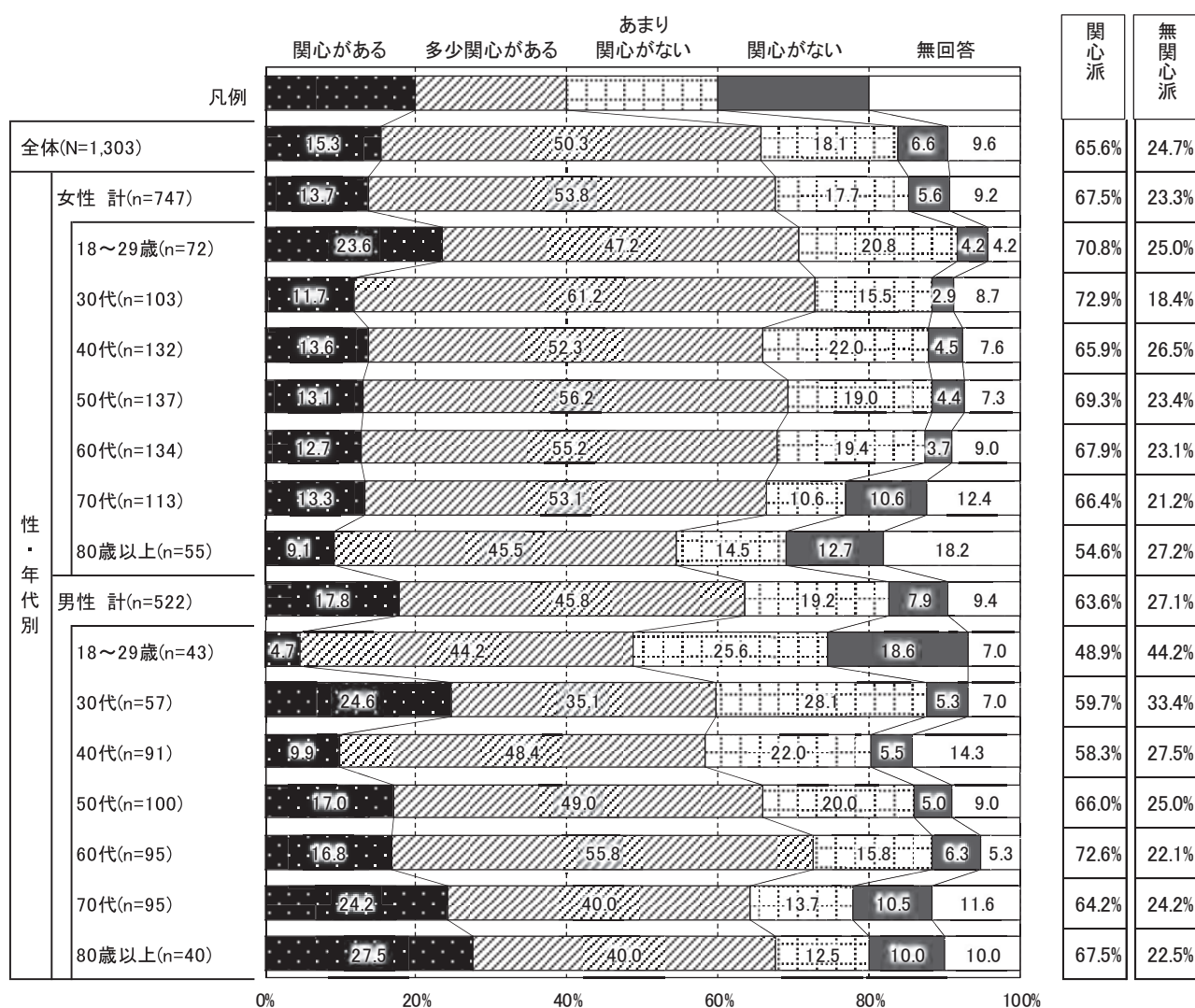
『関心派』＝「関心がある」「多少関心がある」を合計した割合

『無関心派』＝「関心がない」「あまり関心がない」を合計した割合

平成29年度と比較すると、「関心がある」は5.8ポイント増加、「多少関心がある」は9.9ポイント減少し、これらを合わせた『関心派』は4.1ポイントの減少となっている。一方、「関心がない」は2.3ポイント増加、「あまり関心がない」は5.5ポイント減少し、これらを合わせた『無関心派』は3.2ポイントの減少となっている。

過去の調査結果と比較すると、『関心派』は、平成24年度までは7割台で推移していたが、平成29年度は69.7%に減少し、今回はさらに低下し、65.6%となっている。また、今回調査では、「無回答」が9.6%と大きく増加している。その一方で、『無関心派』は2割台を続けている。

図表 4-3 人権問題にどの程度関心を持っているか（性・年代別）

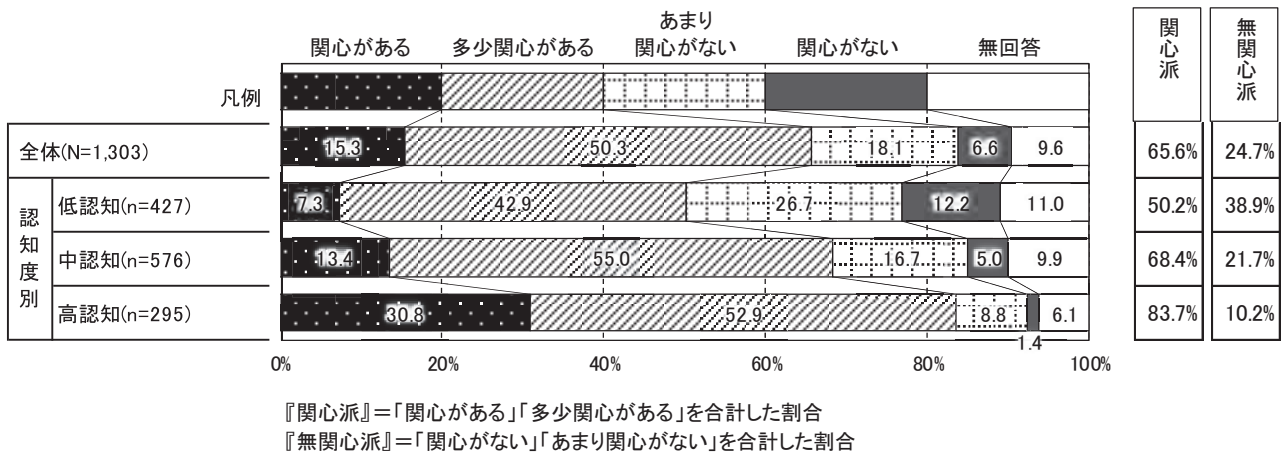


『関心派』＝「関心がある」「多少関心がある」を合計した割合
 『無関心派』＝「関心がない」「あまり関心がない」を合計した割合

性別にみると、女性では『関心派』が67.5%と男性（63.6%）よりも3.9ポイント高く、男性は『無関心派』が27.1%と女性（23.3%）よりも3.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性の30代以下では『関心派』が7割台と高いが、男性の40代以下では6割に満たず、特に18～29歳では5割にも満たず、差が大きくなっている。

図表 4-4 人権問題にどの程度関心を持っているか（認知度別）

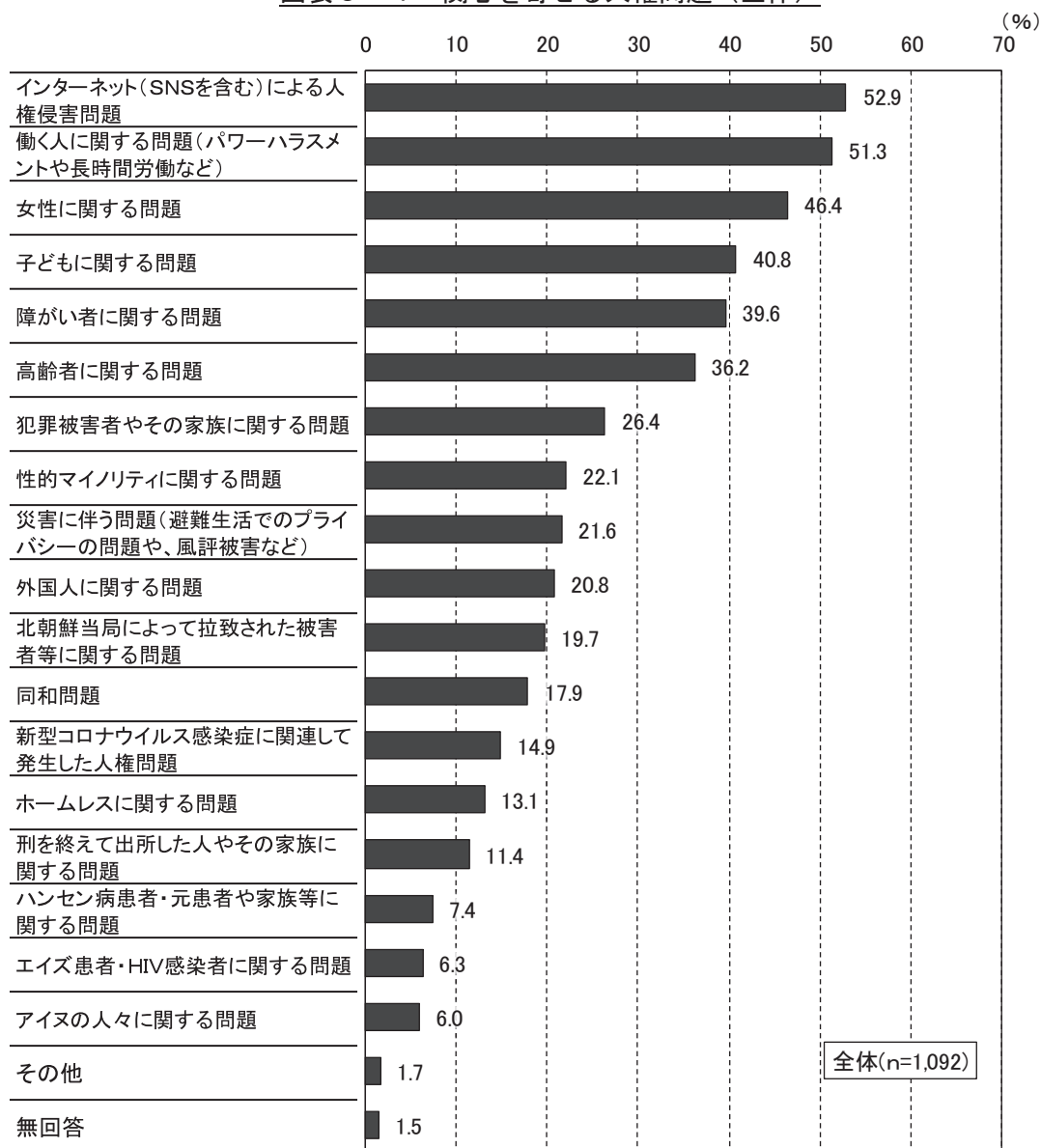


認知度別にみると、認知度が高いほど『関心派』の割合が高く、『無関心派』の割合は低くなっている。

(2) 関心を寄せる人権問題

問5 (問4で1～3に○印をつけられた方に、お尋ねします。)
次の中であなたが関心を寄せるものをすべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)

図表5-1 関心を寄せる人権問題 (全体)



関心を寄せる人権問題としては、「インターネット(SNSを含む)による人権侵害問題」が52.9%と最も高くなっている。次いで「働く人に関する問題(パワーハラスメントや長時間労働など)」(51.3%)、「女性に関する問題」(46.4%)、「子どもに関する問題」(40.8%)、「障がい者に関する問題」(39.6%)、「高齢者に関する問題」(36.2%)となっている。

図表 5-2 関心を寄せる人権問題（全体／経年比較）

選択肢	今回 (n=1,092)	平成29年度 (n=1,060)	平成24年度 (n=1,272)	平成19年度 (n=1,863)
インターネット(SNSを含む)による人権侵害問題※1	52.9%	46.8%	43.4%	29.6%
働く人に関する問題(パワーハラスメントや長時間労働など)※2	51.3%	54.1%		
女性に関する問題	46.4%	42.7%	42.2%	25.5%
子どもに関する問題	40.8%	42.4%	46.5%	31.0%
障がい者に関する問題	39.6%	49.4%	56.1%	39.5%
高齢者に関する問題	36.2%	43.9%	49.4%	43.4%
犯罪被害者やその家族に関する問題	26.4%	30.8%	32.9%	27.1%
性的マイノリティに関する問題※2	22.1%	16.2%		
災害に伴う問題(避難生活でのプライバシーの問題や、風評被害など)※2	21.6%	33.2%		
外国人に関する問題	20.8%	17.7%	18.6%	10.5%
北朝鮮当局によって拉致された被害者等に関する問題※3	19.7%	28.1%	37.7%	
同和問題	17.9%	18.8%	33.6%	17.8%
新型コロナウイルス感染症に関連して発生した人権問題※4	14.9%			
ホームレスに関する問題	13.1%	12.3%	20.5%	14.1%
刑を終えて出所した人やその家族に関する問題	11.4%	15.1%	17.2%	9.2%
ハンセン病患者・元患者や家族等に関する問題※5	7.4%	13.1%	20.0%	9.1%
エイズ患者・HIV感染者に関する問題※5	6.3%			
アイヌの人々に関する問題	6.0%	5.8%	6.4%	1.3%
その他	1.7%	1.2%	1.5%	1.3%
無回答	1.5%	1.8%	1.5%	2.2%

※1 「(SNSを含む)」は、今回調査より追加

※2 平成29年度調査より追加した選択肢

※3 平成24年度調査より追加した選択肢

※4 今回調査より追加した選択肢

※5 平成29年度調査までは「HIV(エイズウィルス)感染者・ハンセン病患者などに関する問題」

平成 29 年度と比較すると、上位項目では「インターネット（SNSを含む）による人権侵害問題」は 6.1 ポイント増加、「働く人に関する問題（パワーハラスメントや長時間労働など）」は 2.8 ポイント減少、「女性に関する問題」は 3.7 ポイント増加している。

過去の調査結果と比較すると、「インターネット（SNSを含む）による人権侵害問題」は平成 19 年度以降、増加しており、今回調査では初めて 5 割を超え最も高くなっている。また、「女性に関する問題」も増加傾向が続いている。

一方で、「子どもに関する問題」「障がい者に関する問題」「高齢者に関する問題」などは、上位の項目でも減少傾向にある。

図表5-3 関心を寄せる人権問題（性・年代別）

（数値：％）

	サンプル数	インターネット（SNSを含む）による人権侵害	働く人に関する問題（パワー・ハラスメントや長時間労働など）	女性に関する問題	子どもに関する問題	障がい者に関する問題	高齢者に関する問題	犯罪被害者やその家族に関する問題	性的マイノリティに関する問題	活でのプライバシーの問題や、風評被害など	災害に伴う問題（避難生活での問題など）	外国人に関する問題	北朝鮮当局によつて拉致された被害者等に関する問題	同和問題
全体	1,092	52.9	51.3	46.4	40.8	39.6	36.2	26.4	22.1	21.6	20.8	19.7	17.9	
性・年代別	女性計	636	52.2	52.4	56.1	47.0	37.6	37.1	26.3	25.2	23.4	19.7	18.2	14.8
	18～29歳	66	51.5	59.1	● 75.8	47.0	31.8	22.7	24.2	● 54.5	19.7	15.2	3.0	15.2
	30代	91	54.9	● 62.6	● 74.7	● 68.1	35.2	22.0	17.6	● 34.1	16.5	26.4	2.2	9.9
	40代	116	53.4	46.6	54.3	46.6	35.3	32.8	25.0	22.4	18.1	19.8	12.9	8.6
	50代	121	● 66.9	● 62.8	● 59.5	49.6	33.1	38.8	32.2	28.1	30.6	25.6	20.7	11.6
	60代	117	52.1	49.6	47.9	41.9	37.6	42.7	26.5	16.2	25.6	16.2	23.9	17.9
	70代	87	42.5	33.3	40.2	34.5	49.4	● 47.1	28.7	11.5	23.0	11.5	● 32.2	21.8
	80歳以上	38	18.4	52.6	34.2	34.2	47.4	● 65.8	28.9	10.5	● 34.2	21.1	● 42.1	● 28.9
	男性計	432	54.9	50.0	32.6	32.9	42.4	34.5	26.6	18.3	18.5	22.5	22.0	22.9
	18～29歳	32	59.4	56.3	15.6	31.3	25.0	6.3	15.6	18.8	9.4	6.3	6.3	9.4
	30代	50	56.0	46.0	48.0	40.0	46.0	22.0	28.0	18.0	10.0	28.0	8.0	24.0
	40代	73	● 63.0	● 64.4	31.5	38.4	42.5	27.4	27.4	20.5	20.5	28.8	15.1	16.4
	50代	86	54.7	54.7	25.6	24.4	39.5	30.2	32.6	19.8	18.6	22.1	20.9	20.9
	60代	84	56.0	44.0	33.3	29.8	35.7	38.1	25.0	13.1	17.9	21.4	22.6	15.5
70代	74	54.1	41.9	37.8	37.8	● 50.0	● 50.0	27.0	20.3	23.0	21.6	● 39.2	● 33.8	
80歳以上	32	28.1	37.5	31.3	28.1	● 59.4	● 62.5	18.8	15.6	25.0	18.8	● 34.4	● 46.9	

	サンプル数	新型コロナウイルス感染症に関連して発生した人権問題	ホームレスに関する問題	刑を終えて出所した人やその家族に関する問題	ハンセン病に患者・元患者や家族に関する問題	エイズ患者・HIV感染者に関する問題	アイヌの人々に関する問題	その他	無回答	
全体	1,092	14.9	13.1	11.4	7.4	6.3	6.0	1.7	1.5	
性・年代別	女性計	636	15.9	10.4	10.5	6.8	5.7	6.4	1.1	0.3
	18～29歳	66	18.2	10.6	7.6	6.1	6.1	4.5	-	-
	30代	91	18.7	6.6	6.6	3.3	4.4	3.3	1.1	-
	40代	116	16.4	5.2	9.5	5.2	5.2	7.8	0.9	-
	50代	121	17.4	12.4	14.9	7.4	7.4	7.4	2.5	-
	60代	117	12.0	12.8	8.5	11.1	6.8	6.8	0.9	0.9
	70代	87	11.5	13.8	14.9	5.7	2.3	4.6	1.1	-
	80歳以上	38	21.1	13.2	10.5	7.9	7.9	13.2	-	2.6
	男性計	432	13.9	17.6	12.7	8.8	7.2	5.3	2.3	3.0
	18～29歳	32	9.4	6.3	12.5	3.1	6.3	3.1	9.4	-
	30代	50	● 26.0	12.0	12.0	8.0	12.0	6.0	2.0	6.0
	40代	73	15.1	16.4	11.0	11.0	6.8	6.8	1.4	5.5
	50代	86	10.5	14.0	16.3	5.8	10.5	5.8	3.5	3.5
	60代	84	6.0	14.3	3.6	4.8	1.2	1.2	1.2	2.4
70代	74	18.9	● 32.4	17.6	10.8	5.4	8.1	1.4	1.4	
80歳以上	32	12.5	21.9	18.8	● 21.9	9.4	3.1	-	-	

※ = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

性別にみると、女性では「女性に関する問題」（56.1％）が最も高く、次いで「働く人に関する問題（パワー・ハラスメントや長時間労働など）」（52.4％）、「インターネット（SNSを含む）による人権侵害

害問題」(52.2%)となっているが、男性では「インターネット(SNSを含む)による人権侵害問題」(54.9%)が最も高く、次いで「働く人に関する問題(パワーハラスメントや長時間労働など)」(50.0%)、「障がい者に関する問題」(42.4%)となっている。

また、女性では「女性に関する問題」が56.1%と男性(32.6%)よりも23.5ポイント、「子どもに関する問題」が47.0%と、男性(32.9%)よりも14.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性の50代以下では、「女性に関する問題」や「子どもに関する問題」への関心が高くなっているが、男性は、概ね全年代を通して女性に比べて低く、性別による差が大きい。また、女性30代・50代、男性40代では「働く人に関する問題(パワーハラスメントや長時間労働など)」、女性50代、男性40代では「インターネット(SNSを含む)による人権侵害問題」、女性30代以下では「性的マイノリティに関する問題」、男女とも70代以上では「障がい者に関する問題」、「高齢者に関する問題」への関心も高い。

これら以外にも、性・年代別により関心のある分野が多岐にわたっていることがうかがえる。

図表5-4 関心を寄せる人権問題(認知度別)

(数値：%)

	サンプル数	インターネット(SNSを含む)による人権侵害問題	働く人に関する問題(パワーハラスメントや長時間労働など)	女性に関する問題	子どもに関する問題	障がい者に関する問題	高齢者に関する問題	犯罪被害者やその家族に関する問題	性的マイノリティに関する問題	災害に伴う問題(避難生活でのプライバシーの問題や、風評被害など)	外国人に関する問題	北朝鮮当局によって拉致された被害者等に関する問題	同和問題	
全体	1,092	52.9	51.3	46.4	40.8	39.6	36.2	26.4	22.1	21.6	20.8	19.7	17.9	
認知度別	低認知	328	45.1	50.6	41.8	32.3	35.7	37.5	20.4	15.5	19.2	13.7	18.6	14.3
	中認知	490	54.1	50.6	46.5	41.4	36.9	35.1	26.7	21.4	21.4	20.0	21.2	16.5
	高認知	273	60.4	53.5	51.6	50.2	49.1	36.6	33.0	31.1	24.5	●30.8	18.3	24.5
	サンプル数	新型コロナウイルス発生した人権問題に	ホームレスに関する問題	刑を終えて出所した人やその家族に関する問題	ハンセン病患者・元患者や家族等に関する問題	エイズ患者・HIV感染者に関する問題	アイヌの人々に関する問題	その他	無回答					
全体	1,092	14.9	13.1	11.4	7.4	6.3	6.0	1.7	1.5					
認知度別	低認知	328	12.5	9.1	9.1	4.9	4.3	4.0	1.8	2.4				
	中認知	490	13.9	12.7	9.4	7.1	5.3	5.7	1.4	1.4				
	高認知	273	19.8	18.7	17.6	11.0	10.6	9.2	2.2	0.4				

※ = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

認知度別にみると、認知度が高いほど各項目の関心が高くなる傾向にある。

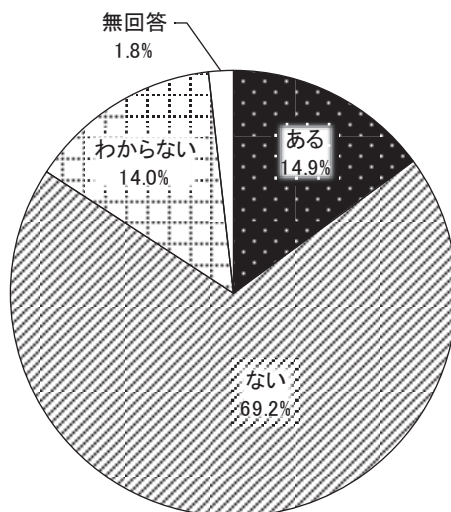
3 差別や人権侵害に対する考え、経験

(1) 差別や人権侵害されたと思った経験

問6 あなたは、この5年間に差別をされた、人権を侵害されたと思ったことがありますか。
(○は1つだけ)

※今回調査から新設

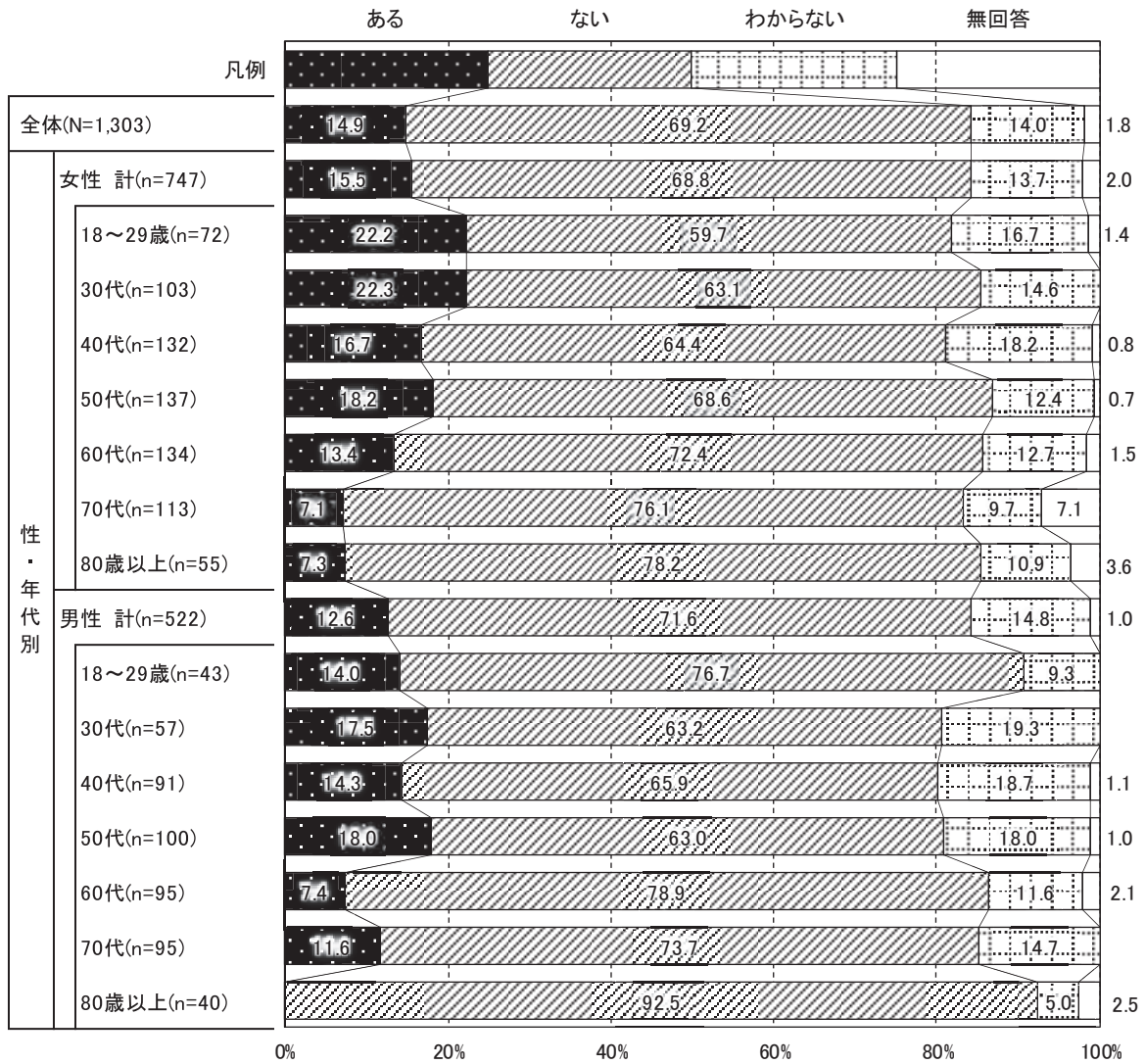
図表6-1 差別や人権侵害されたと思った経験（全体）



全体(N=1,303)

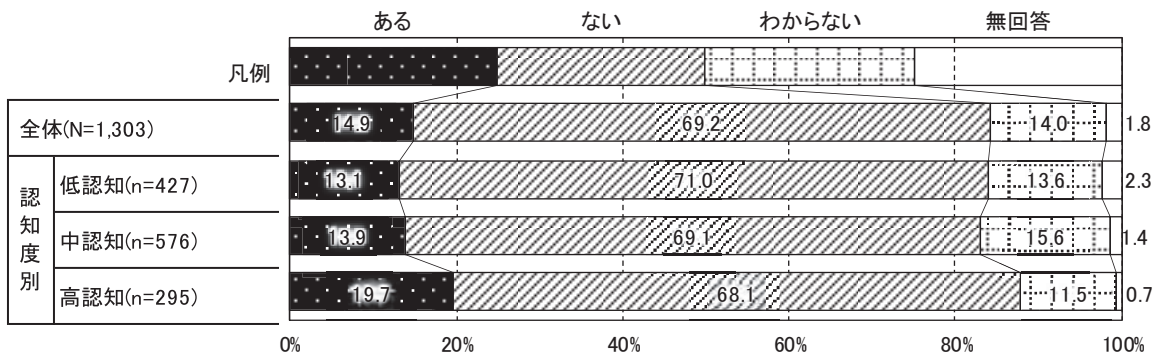
この5年間に差別をされた、人権を侵害されたと思った経験については、「ある」が14.9%、「ない」が69.2%、「わからない」が14.0%となっている。

図表 6-2 差別や人権侵害されたと思った経験（性・年代別）



性別にみると、女性では「ある」は15.5%と男性（12.6%）より2.9ポイント高くなっている。性・年代別にみると、女性では年代が低くなるほど差別や人権侵害されたと思ったことが「ある」割合が高くなる傾向がある。一方、男性では、そのような傾向はみられない。

図表 6-3 差別や人権侵害されたと思った経験（認知度別）

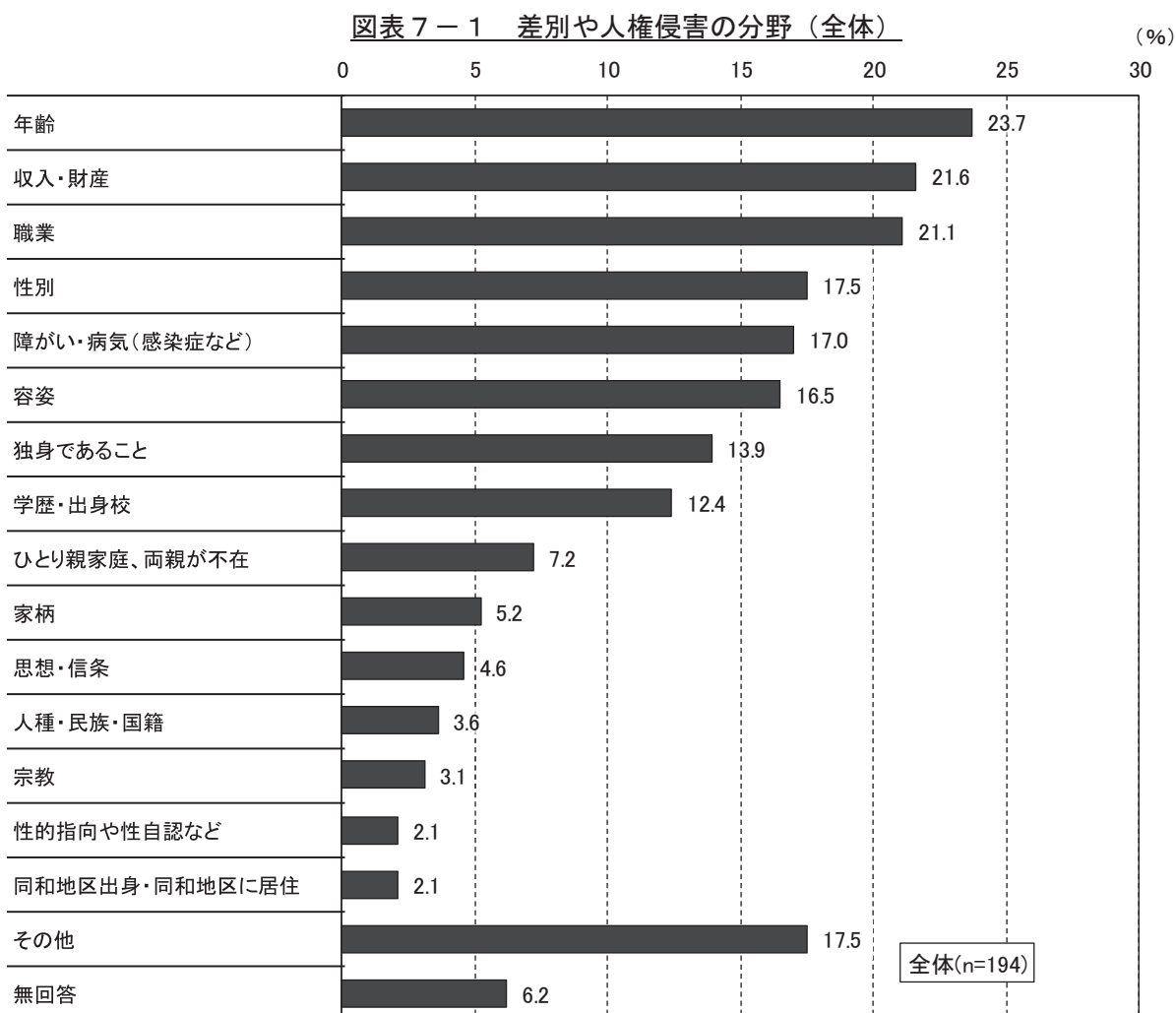


認知度別にみると、認知度が高いほど「ある」の割合が高くなっている。

(2) 差別や人権侵害の分野

問7 (問6で1に○印をつけられた方に、お尋ねします。)

ア 差別をされた、人権を侵害されたと思ったのは、何についてですか。次の中から該当するものを、すべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)



※平成29年度調査以前は、全対象者に対する設問だったが、今回調査から「問6」で「ある」の回答者のみを問7アの回答対象者とした。

差別をされた、人権を侵害されたと思った分野としては、「年齢」が23.7%と最も高くなっている。次いで「収入・財産」(21.6%)、「職業」(21.1%)となっている。

なお、「その他」の内訳としては、職場での働き方に関することや、子どもの有無や子どもの障がい、パートナー等の家族に関する事などが多くなっている。

図表 7-2 差別や人権侵害の分野（性・年代別）

（数値：％）

	サンプル数	年齢	収入・財産	職業	性別	障がい・病気（感染症など）	容姿	独身であること	学歴・出身校	ひとり親家庭、両親が不在	家柄	思想・信条	人種・民族・国籍	
全体	194	23.7	21.6	21.1	17.5	17.0	16.5	13.9	12.4	7.2	5.2	4.6	3.6	
性・年代別	女性 計	116	26.7	18.1	22.4	23.3	15.5	15.5	19.0	13.8	7.8	6.0	4.3	2.6
	18～29歳	16	● 37.5	18.8	25.0	● 62.5	6.3	● 31.3	18.8	18.8	12.5	12.5	6.3	-
	30代	23	26.1	13.0	26.1	17.4	21.7	13.0	● 34.8	13.0	-	13.0	-	4.3
	40代	22	18.2	4.5	27.3	22.7	18.2	9.1	4.5	4.5	13.6	-	-	-
	50代	25	24.0	16.0	28.0	8.0	8.0	20.0	● 24.0	● 24.0	12.0	4.0	8.0	8.0
	60代	18	22.2	● 38.9	16.7	16.7	16.7	16.7	11.1	5.6	5.6	5.6	11.1	-
	70代	8	● 62.5	12.5	-	● 37.5	● 37.5	-	12.5	● 25.0	-	-	-	-
	80歳以上	4	-	● 50.0	-	-	-	-	● 25.0	-	-	-	-	-
	男性 計	66	18.2	22.7	19.7	4.5	19.7	16.7	6.1	12.1	3.0	1.5	6.1	6.1
	18～29歳	6	16.7	● 33.3	16.7	-	-	16.7	-	● 50.0	-	● 16.7	-	-
	30代	10	-	20.0	20.0	-	● 30.0	● 30.0	-	20.0	10.0	-	10.0	● 20.0
	40代	13	23.1	15.4	7.7	15.4	-	15.4	7.7	7.7	-	-	7.7	● 15.4
	50代	18	11.1	16.7	22.2	-	● 33.3	16.7	16.7	5.6	5.6	-	11.1	-
	60代	7	-	28.6	● 42.9	-	14.3	-	-	14.3	-	-	-	-
70代	11	● 45.5	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1	-	-	-	-	-	-	
80歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

	サンプル数	宗教	性的指向や性自認など	地区・居住地に出身・同和	その他	無回答	
全体	194	3.1	2.1	2.1	17.5	6.2	
性・年代別	女性 計	116	2.6	1.7	1.7	14.7	3.4
	18～29歳	16	6.3	-	-	12.5	6.3
	30代	23	-	-	4.3	21.7	4.3
	40代	22	4.5	-	-	22.7	-
	50代	25	-	-	4.0	8.0	8.0
	60代	18	5.6	11.1	-	5.6	-
	70代	8	-	-	-	12.5	-
	80歳以上	4	-	-	-	25.0	-
	男性 計	66	4.5	3.0	3.0	22.7	10.6
	18～29歳	6	-	-	-	-	● 16.7
	30代	10	10.0	-	10.0	● 40.0	-
	40代	13	7.7	-	-	15.4	15.4
	50代	18	-	5.6	5.6	● 33.3	11.1
	60代	7	-	-	-	14.3	-
70代	11	9.1	9.1	-	18.2	● 18.2	
80歳以上	-	-	-	-	-	-	

※ =全体の数値より+5ポイント、● =全体の数値より+10ポイント

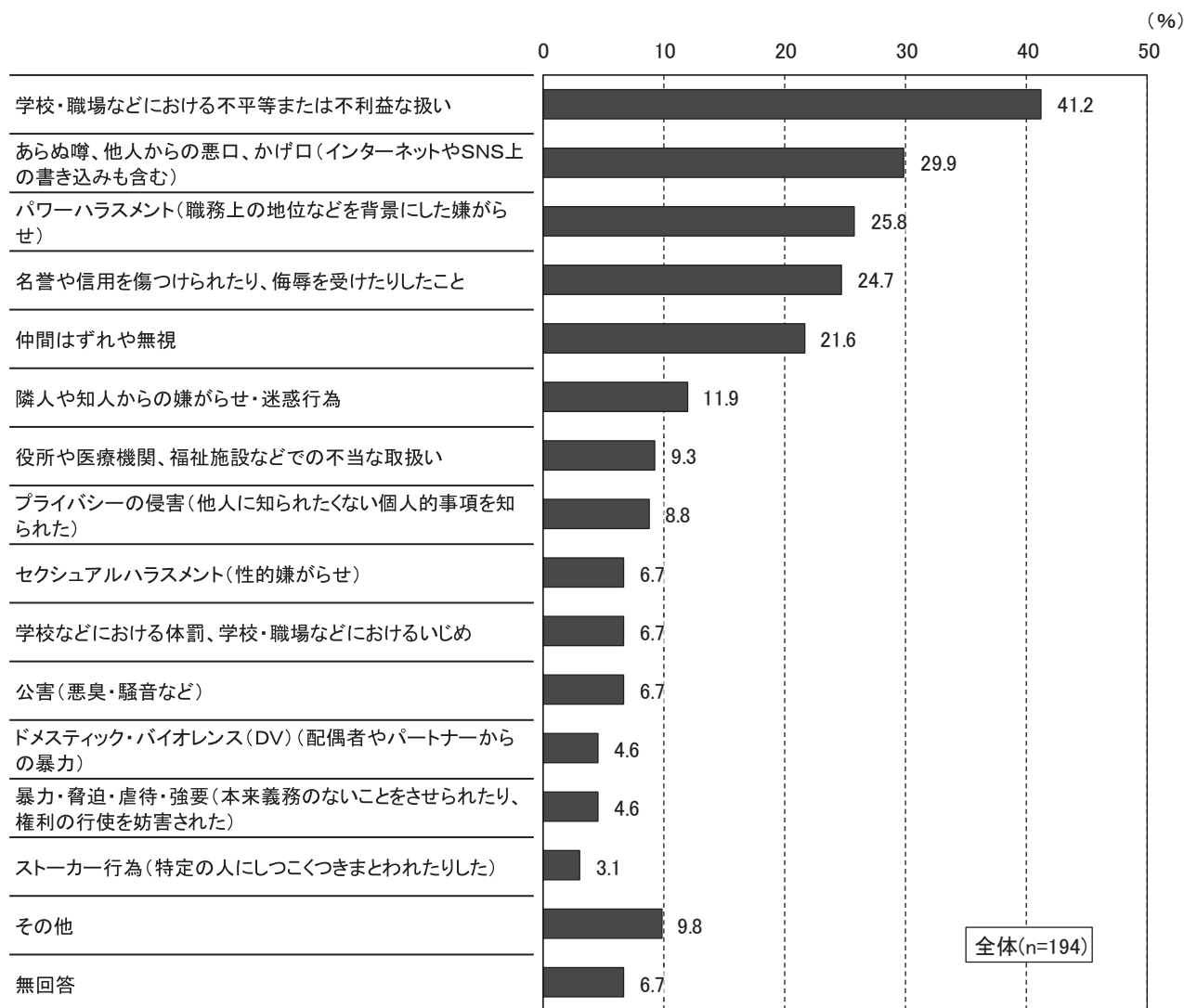
性別にみると、女性では「年齢」（26.7％）が最も高く、次いで「性別」（23.3％）、「職業」（22.4％）となっているが、男性では「収入・財産」（22.7％）が最も高く、次いで「職業」（19.7％）、「障がい・病気（感染症など）」（19.7％）となっている。

また、女性では「性別」が23.3％と男性（4.5％）よりも18.8ポイント、「独身であること」が19.0％と男性（6.1％）よりも12.9ポイント、「年齢」が26.7％と男性（18.2％）よりも8.5ポイント高くなっている。

(3) 差別や人権侵害の内容

問7 (問6で1に○印をつけられた方に、お尋ねします。)
イ 差別をされた、人権を侵害されたと思ったのは、どのような行為についてですか。次の中から該当するものを、すべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)

図表7-3 差別や人権侵害の内容(全体)



※平成29年度調査以前は、全対象者に対する設問だったが、今回調査から「問6」で「ある」の回答者のみを問7イの回答対象とした。


差別をされた、人権を侵害されたと思った行為としては、「学校・職場などにおける不平等または不利益な扱い」が41.2%と最も高い。次いで「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口(インターネットやSNS上の書き込みも含む)」(29.9%)、「パワーハラスメント(職務上の地位などを背景にした嫌がらせ)」(25.8%)、「名誉や信用を傷つけられたり、侮辱を受けたりしたこと」(24.7%)、「仲間はずれや無視」(21.6%)となっている。

図表7-4 差別や人権侵害の内容（性・年代別）

（数値：％）

	サンプル数	い 不 学 校 ・ 職 場 な ど に お け る 不 平 等 ま た は 不 利 益 な 扱 い	学 校 ・ 職 場 な ど に お け る 体 罰 、 学 校 な ど に お け る 不 平 等 ま た は 不 利 益 な 扱 い	あ ら ぬ 噂 、 他 人 か ら の 悪 口 、 か げ 口 （ イ ン タ ー ネ ッ ト や S N S 上 の 書 き 込 み も 含 む ）	パ ワ ー ハ ラ ス メ ン ト （ 職 務 上 の 地 位 な ど を 背 景 に し た 嫌 が ら せ ）	名 言 や 信 用 を 傷 つ け ら れ た り 、 侮 辱 を 受 け た り し た こ と	仲 間 は ず れ や 無 視	隣 人 や 知 人 か ら の 嫌 が ら せ ・ 迷 惑 行 為	設 所 や 医 療 機 関 、 福 祉 施 設 な ど で の 不 当 な 取 扱 い	人 に 知 ら れ た く な い 個 人 的 事 項 を 知 ら れ た ）	セ ク シ ュ ア ル ハ ラ ス メ ン ト （ 性 的 嫌 が ら せ ）
全 体	194	41.2	29.9	25.8	24.7	21.6	11.9	9.3	8.8	6.7	
性・年代別	女性 計	116	42.2	28.4	25.0	23.3	19.8	12.1	9.5	8.6	10.3
	18～29歳	16	31.3	37.5	31.3	25.0	-	● 25.0	6.3	-	● 31.3
	30代	23	● 56.5	30.4	17.4	21.7	17.4	4.3	8.7	17.4	● 17.4
	40代	22	● 54.5	27.3	31.8	27.3	27.3	13.6	13.6	4.5	-
	50代	25	40.0	36.0	20.0	24.0	20.0	-	4.0	12.0	8.0
	60代	18	44.4	22.2	27.8	27.8	22.2	● 22.2	16.7	-	5.6
	70代	8	-	12.5	25.0	12.5	● 50.0	● 25.0	12.5	12.5	-
	80歳以上	4	25.0	-	25.0	-	-	-	-	● 25.0	-
	男性 計	66	40.9	30.3	27.3	27.3	22.7	10.6	10.6	9.1	-
	18～29歳	6	16.7	33.3	-	16.7	16.7	-	-	-	-
	30代	10	40.0	● 50.0	● 50.0	● 50.0	20.0	10.0	-	● 20.0	-
	40代	13	46.2	15.4	30.8	30.8	7.7	7.7	7.7	-	-
	50代	18	44.4	● 44.4	16.7	33.3	27.8	16.7	16.7	11.1	-
	60代	7	● 57.1	14.3	14.3	14.3	● 42.9	-	14.3	-	-
70代	11	27.3	18.2	● 36.4	9.1	18.2	18.2	9.1	18.2	-	
80歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

	サンプル数	い 学 校 ・ 職 場 な ど に お け る 不 平 等 ま た は 不 利 益 な 扱 い	公 害 （ 悪 臭 ・ 騒 音 な ど ）	カ ヤ レ ム ス （ D V ） （ 配 偶 者 か ら の 暴 力 ）	レ ム ス （ D V ） （ 配 偶 者 か ら の 暴 力 ）	暴 力 ・ 脅 迫 ・ 虚 待 ・ 強 要 （ 本 来 の 義 務 の な い こ と を せ せ ら れ た り 、 権 利 の 行 使 を 妨 害 さ れ た ）	ス ト ー カ ー 行 為 （ 特 定 の 人 に し つ く こ と ）	そ の 他	無 回 答
全 体	194	6.7	6.7	4.6	4.6	3.1	9.8	6.7	
性・年代別	女性 計	116	5.2	6.0	5.2	2.6	3.4	11.2	4.3
	18～29歳	16	6.3	6.3	-	6.3	-	12.5	-
	30代	23	8.7	8.7	-	4.3	13.0	13.0	4.3
	40代	22	-	-	9.1	4.5	-	13.6	4.5
	50代	25	8.0	4.0	8.0	-	-	8.0	4.0
	60代	18	-	● 16.7	5.6	-	-	5.6	-
	70代	8	12.5	-	-	-	-	● 25.0	● 25.0
	80歳以上	4	-	-	● 25.0	-	● 25.0	-	-
	男性 計	66	9.1	7.6	3.0	7.6	3.0	9.1	10.6
	18～29歳	6	● 16.7	-	-	-	-	16.7	● 16.7
	30代	10	10.0	-	10.0	● 20.0	10.0	10.0	-
	40代	13	-	7.7	-	● 15.4	-	7.7	7.7
	50代	18	11.1	5.6	5.6	-	5.6	11.1	11.1
	60代	7	14.3	14.3	-	-	-	-	-
70代	11	9.1	● 18.2	-	9.1	-	9.1	● 27.3	
80歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	

※  =全体の数値より+5ポイント、●=全体の数値より+10ポイント

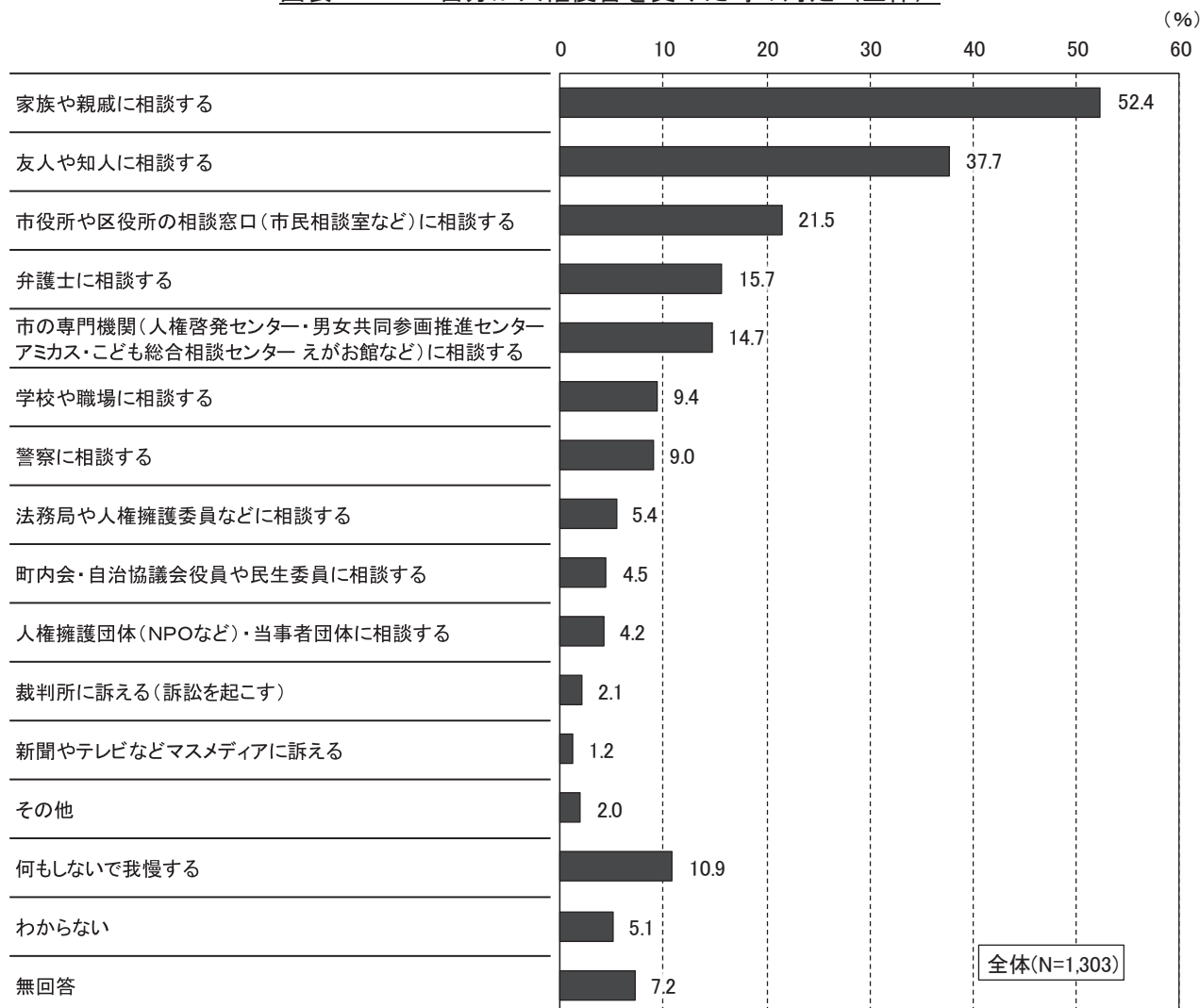
性別にみると、男女とも「学校・職場などにおける不平等または不利益な扱い」（女性42.2%、男性40.9%）が最も高く、次いで「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口（インターネットやSNS上の書き込みも含む）」（女性28.4%、男性30.3%）、「パワーハラスメント（職務上の地位などを背景にした嫌がらせ）」（女性25.0%、男性27.3%）となっている。

また、女性では「セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）」が10.3%となっているが、男性では全くあげられていない。

(4) 自分が人権侵害を受けた時の対処

問8 差別を受けるなど、人権を侵害され、自分だけでは解決できないと判断した場合、あなたはどのように対処しますか（しましたか）。（〇は3つまで）

図表8-1 自分が人権侵害を受けた時の対処（全体）



差別を受けるなど、人権を侵害され、自分だけでは解決できないと判断した場合の対処方法としては、「家族や親戚に相談する」が52.4%と最も高くなっている。次いで「友人や知人に相談する」(37.7%)、「市役所や区役所の相談窓口（市民相談室など）に相談する」(21.5%)となっている。

図表 8-2 自分が人権侵害を受けた時の対処（全体／経年比較）

選択肢	今回 (N=1,303)	平成29年度 (N=1,136)	平成24年度 (N=1,351)	平成19年度 (N=1,863)	平成14年度 (N=1,327)	平成7年度 (N=1,285)	平成元年度 (N=1,070)
家族や親戚に相談する	52.4%	53.4%	55.9%	54.8%	55.2%	61.5%	35.1%
友人や知人に相談する	37.7%	41.5%	46.0%	45.2%	43.1%	42.5%	21.5%
市役所や区役所の相談窓口(市民相談室など)に相談する	21.5%	22.2%	24.1%	18.4%	22.8%	34.5%	7.6%
弁護士に相談する※1	15.7%	12.7%	15.2%	16.6%			
市の専門機関(人権啓発センター・男女共同参画推進センター アミカス・こども総合相談センター えがお館など)に相談する※1	14.7%	19.7%	15.0%	18.6%			
学校や職場に相談する※1	9.4%	9.4%	8.7%	7.2%			
警察に相談する※1	9.0%	13.3%	15.3%	12.1%			
法務局や人権擁護委員などに相談する	5.4%	6.0%	9.0%	12.1%	22.9%	35.3%	20.7%
町内会・自治協議会役員や民生委員に相談する	4.5%	4.5%	4.9%	6.5%	6.9%	11.2%	5.5%
人権擁護団体(NPOなど)・当事者団体に相談する※2	4.2%	2.2%	5.4%	7.9%	23.9%		
裁判所に訴える(訴訟を起こす)※3	2.1%	2.1%	2.1%	2.0%	11.7%	13.7%	
新聞やテレビなどマスメディアに訴える	1.2%	2.2%	2.6%	3.0%	11.6%	7.2%	7.5%
その他	2.0%	0.8%	0.8%	1.9%	3.5%	2.3%	4.1%
何もしないで我慢する	10.9%	4.8%	4.7%	9.0%	4.1%	1.1%	9.8%
わからない※1	5.1%	6.3%	3.8%	3.3%			
無回答	7.2%	4.4%	4.6%	3.6%	2.3%	3.0%	11.7%

※1 平成19年度調査より追加した選択肢

※2 平成14年度調査より追加した選択肢、「当事者団体」は今回調査より追加

※3 平成7年度調査より追加した選択肢

平成 29 年度と比較すると、上位項目では「家族や親戚に相談する」は 1.0 ポイント減少、「友人や知人に相談する」は 3.8 ポイント減少、「市役所や区役所の相談窓口（市民相談室など）に相談する」は 0.7 ポイント減少している。

過去の調査結果と比較すると、「家族や親戚に相談する」は平成 14 年度以降 5 割台で推移し、常に最も高くなっている。「友人や知人に相談する」は平成 7 年度以降 4 割台で推移してきたが、今回調査では 3 割台に減少している。

その一方で、「何もしないで我慢する」が平成 29 年度の 4.8%から 6.1 ポイント増加し 10.9%となっている。

図表 8-3 自分が人権侵害を受けた時の対処（性・年代別）

(数値：%)

	サンプル数	家族や親戚に相談する	友人や知人に相談する	市役所や区役所の相談窓口（市民相談室など）に相談する	弁護士に相談する	市の専門機関（人権啓発センター・男女共同参画推進センター・アミカス・こども総合相談センターなどがお館などに相談する	学校や職場に相談する	警察に相談する	法務局や人権擁護委員などに相談する	町内会・自治協議会役員や民生委員に相談する	
全体	1,303	52.4	37.7	21.5	15.7	14.7	9.4	9.0	5.4	4.5	
性・年代別	女性 計	747	59.4	43.8	19.1	12.2	13.4	10.3	7.9	3.3	2.8
	18~29歳	72	● 68.1	● 50.0	5.6	5.6	6.9	16.7	6.9	2.8	-
	30代	103	● 72.8	● 48.5	15.5	16.5	11.7	17.5	6.8	1.0	1.0
	40代	132	● 63.6	44.7	15.9	12.9	9.8	11.4	12.1	2.3	0.8
	50代	137	60.6	● 56.9	21.2	14.6	19.0	15.3	5.1	5.1	-
	60代	134	59.0	39.6	20.9	12.7	17.9	6.0	7.5	4.5	3.7
	70代	113	46.0	31.0	31.0	10.6	13.3	2.7	8.8	3.5	5.3
	80歳以上	55	40.0	29.1	18.2	7.3	9.1	-	7.3	3.6	● 14.5
	男性 計	522	42.7	29.7	24.9	21.3	17.2	8.4	10.3	8.8	6.5
	18~29歳	43	● 62.8	● 51.2	4.7	20.9	4.7	4.7	9.3	2.3	-
	30代	57	50.9	35.1	10.5	22.8	8.8	10.5	5.3	5.3	1.8
	40代	91	59.3	33.0	20.9	20.9	13.2	16.5	12.1	11.0	1.1
50代	100	36.0	30.0	24.0	● 31.0	14.0	14.0	12.0	11.0	-	
60代	95	33.7	26.3	27.4	24.2	● 26.3	3.2	9.5	11.6	2.1	
70代	95	33.7	20.0	● 36.8	12.6	18.9	4.2	11.6	4.2	● 23.2	
80歳以上	40	32.5	20.0	● 45.0	10.0	● 32.5	-	7.5	15.0	● 20.0	

	サンプル数	人権擁護団体（NPOなど）・当事者団体に相談する	裁判所に訴える（訴訟を起す）	新聞やテレビなどマスメディアに訴える	その他	何もしないで我慢する	わからない	無回答	
全体	1,303	4.2	2.1	1.2	2.0	10.9	5.1	7.2	
性・年代別	女性 計	747	3.3	0.5	0.9	1.7	11.1	4.3	7.6
	18~29歳	72	1.4	-	2.8	-	18.1	5.6	4.2
	30代	103	2.9	1.0	1.9	1.9	14.6	1.9	5.8
	40代	132	3.8	0.8	0.8	3.0	12.9	3.0	5.3
	50代	137	2.9	0.7	0.7	2.2	11.7	2.2	2.9
	60代	134	6.0	0.7	0.7	1.5	7.5	5.2	7.5
	70代	113	2.7	-	-	1.8	7.1	6.2	14.2
	80歳以上	55	1.8	-	-	-	5.5	9.1	● 20.0
	男性 計	522	5.7	4.4	1.3	2.1	10.5	6.3	6.3
	18~29歳	43	2.3	2.3	-	2.3	● 20.9	2.3	4.7
	30代	57	5.3	3.5	-	5.3	7.0	8.8	5.3
	40代	91	3.3	6.6	2.2	3.3	15.4	5.5	1.1
50代	100	7.0	7.0	-	2.0	12.0	6.0	4.0	
60代	95	5.3	5.3	2.1	-	8.4	11.6	4.2	
70代	95	9.5	2.1	1.1	1.1	7.4	5.3	13.7	
80歳以上	40	5.0	-	5.0	2.5	2.5	-	15.0	

※ = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

性別にみると、男女とも「家族や親戚に相談する」（女性 59.4%、男性 42.7%）が最も高く、次いで「友人や知人に相談する」（女性 43.8%、男性 29.7%）、「市役所や区役所の相談窓口（市民相談室など）に相談する」（女性 19.1%、男性 24.9%）となっている。

また、女性では「家族や親戚に相談する」が59.4%と男性（42.7%）よりも16.7ポイント、「友人や知人に相談する」が43.8%と男性（29.7%）よりも14.1ポイント高く、性別による差が大きくなっている。

性・年代別にみると、女性50代以下では「家族や親戚に相談する」や「友人や知人に相談する」の割合が高く、男性18～29歳でも高いものの、それ以外では低い。

また、男性では50代で「弁護士に相談する」、60代・80歳以上では「市の専門機関（人権啓発センター・男女共同参画推進センターアミカス・こども総合相談センター えがお館など）に相談する」、70代以上で「市役所や区役所の相談窓口（市民相談室など）に相談する」の割合が高くなっている。

図表8-4 自分が人権侵害を受けた時の対処（認知度別）

(数値：%)

	サンプル数	家族や親戚に相談する	友人や知人に相談する	市役所や区役所の相談窓口（市民相談室など）に相談する	弁護士に相談する	市の専門機関（人権啓発センター・男女共同参画推進センターアミカス・こども総合相談センター えがお館など）に相談する	学校や職場に相談する	警察に相談する	法務局や人権擁護委員などに相談する	町内会・自治協議会役員や民生委員に相談する	
全体	1,303	52.4	37.7	21.5	15.7	14.7	9.4	9.0	5.4	4.5	
認知度別	低認知	427	52.7	37.9	17.8	13.8	10.8	9.8	7.5	3.3	
	中認知	576	53.6	38.7	21.0	16.0	13.9	7.6	10.1	5.0	
	高認知	295	50.5	35.6	28.1	18.0	22.4	12.2	9.2	8.1	
	サンプル数	人権擁護団体（NPOなど）・当事者団体に相談する	裁判所に訴える（訴訟を起こす）	新聞やテレビなどマスメディアに訴える	その他	何もしないで我慢する	わからない	無回答			
全体	1,303	4.2	2.1	1.2	2.0	10.9	5.1	7.2			
認知度別	低認知	427	3.7	1.4	0.2	2.1	11.9	7.3	7.3		
	中認知	576	4.0	2.3	1.4	1.6	12.2	4.5	7.3		
	高認知	295	5.4	2.7	2.0	2.7	7.1	3.1	5.8		

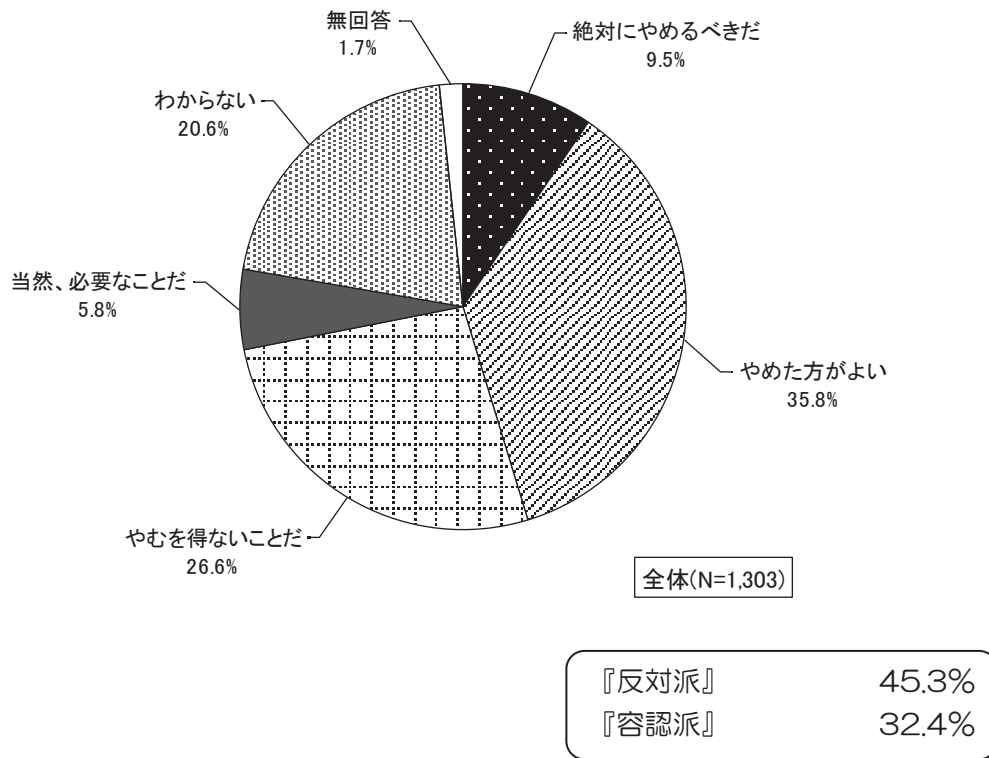
※ = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント

認知度別にみると、高認知では「市役所や区役所の相談窓口（市民相談室など）に相談する」や「市の専門機関（人権啓発センター・男女共同参画推進センターアミカス・こども総合相談センター えがお館など）に相談する」の割合が高くなっている。

4 身元調査についての考え方

問9 あなたは結婚や就職のときに、その相手方などの身元調査をすることについて、どのように考えますか。(○は1つだけ)

図表9-1 身元調査についての考え方(全体)

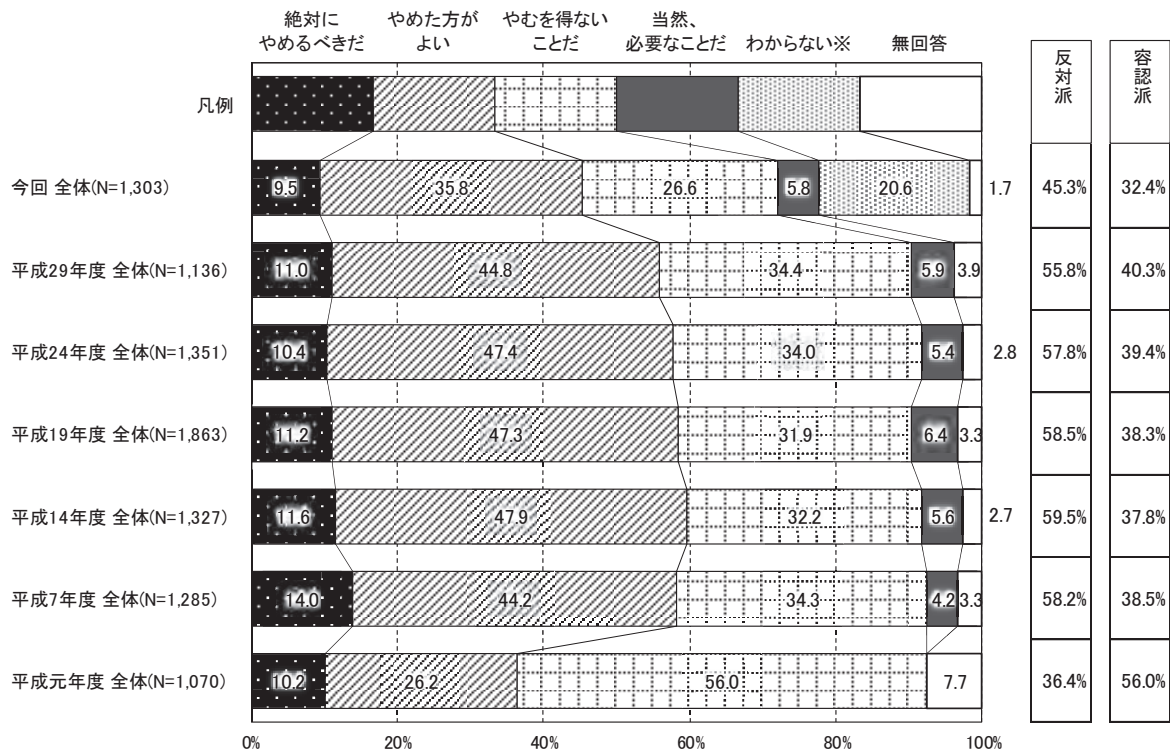


『反対派』 = 「絶対をやめるべきだ」「やめた方がよい」を合計した割合
 『容認派』 = 「当然、必要なことだ」「やむを得ないことだ」を合計した割合

結婚や就職のときの身元調査については、「絶対をやめるべきだ」が9.5%、「やめた方がよい」が35.8%、これらを合わせた『反対派』は45.3%となっている。

一方、『容認派』は32.4%（「やむを得ないことだ」26.6%＋「当然、必要なことだ」5.8%）となっている。

図表 9-2 身元調査についての考え方（全体／経年比較）



※ 「わからない」は、今回調査より追加した選択肢

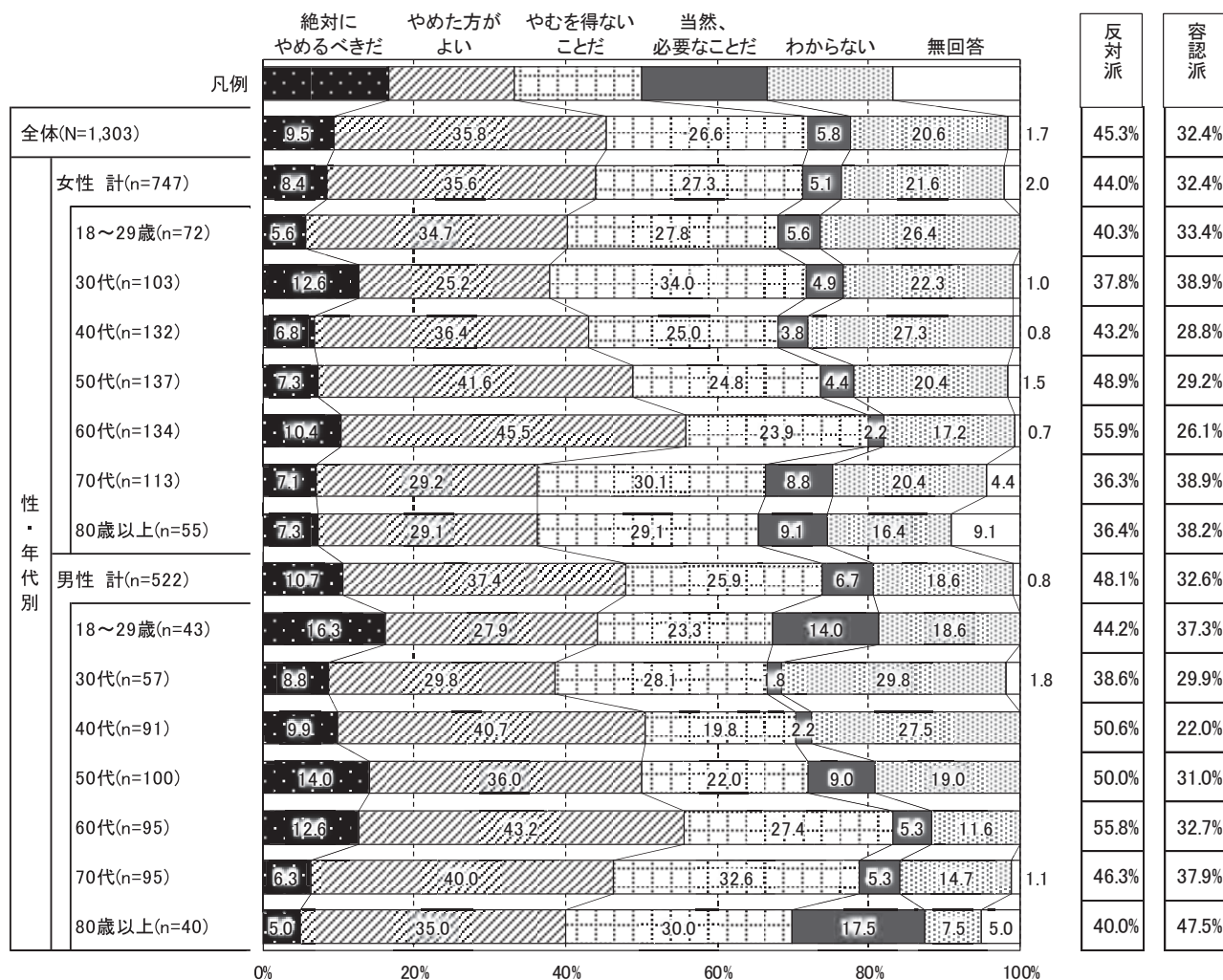
『反対派』=「絶対的にやめるべきだ」「やめた方がよい」を合計した割合
 『容認派』=「当然、必要なことだ」「やむを得ないことだ」を合計した割合

平成 29 年度と比較すると、「絶対的にやめるべきだ」は 1.5 ポイント減少、「やめた方がよい」は 9.0 ポイント減少し、これらを合わせた『反対派』は 10.5 ポイントの減少となっている。一方、「当然、必要なことだ」は 0.1 ポイント減少、「やむを得ないことだ」は 7.8 ポイント減少し、これらを合わせた『容認派』は 7.9 ポイントの減少となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成 14 年度から平成 29 年度にかけて『反対派』が減少し、『容認派』増加する傾向にあったが、今回調査では「わからない」という選択肢を追加した影響からか、『反対派』『容認派』ともに減少している。

また、「身元調査についての考え方」について、約 2 割が「わからない」と回答している。

図表 9-3 身元調査についての考え方 (性・年代別)



『反対派』=「絶対にやめるべきだ」「やめた方がよい」を合計した割合
 『容認派』=「当然、必要なことだ」「やむを得ないことだ」を合計した割合

性別にみると、大きな違いはみられないが、『反対派』(女性 44.0%、男性 48.1%)、『容認派』(女性 32.4%、男性 32.6%)ともに、女性よりも男性が高い。「わからない」(女性 21.6%、男性 18.6%)は女性が男性より 3.0 ポイント高い。

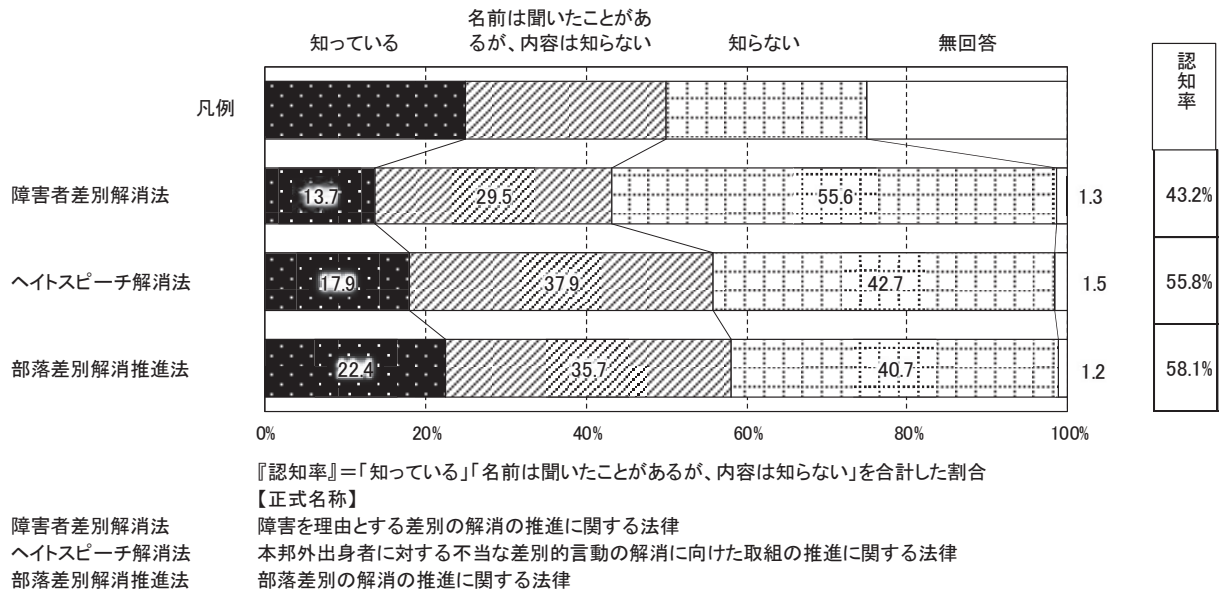
性・年代別にみると、女性 60 代、男性 40~60 代で『反対派』が 5 割以上を占めているが、男女とも 30 代では 4 割に達していない。

5 人権に関する3つの法律の認知状況

問10 平成28年に人権に関する3つの法律が施行されましたが、あなたは次の法律を知っていますか。アからウまでのそれぞれに○印をつけてください。
(ア～ウのすべての事項について、あてはまるもの1つに○)

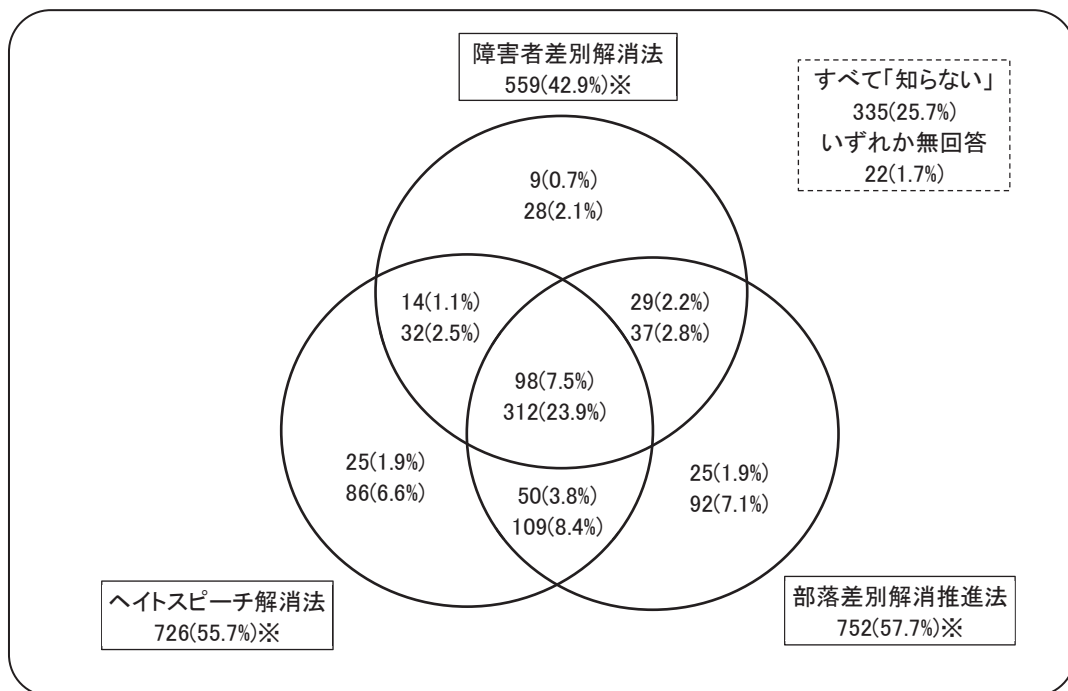
※今回調査から新設

図表 10-1 人権に関する3つの法律の認知状況 (全体)



人権に関する3つの法律の認知状況をみると、「部落差別解消推進法」(58.1%)の認知率が最も高く、次いで「ヘイトスピーチ解消法」(55.8%)、「障害者差別解消法」(43.2%)となっている。

また、3つの法律の間での認知状況は、下図のようになっており、すべて「知っている」と回答した人は98人(7.5%)、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」と回答した人を含むと410人(31.4%)となっている。



※この分類は、3つの法律ともに回答している人を対象としており、いずれかで無回答の人は除いている。
※上段はすべて「知っている」という回答をした人数、下段はひとつでも「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」という回答をした人数、()内の%は、1,303人に対する構成比を表す。

図表 10-2 人権に関する3つの法律の認知状況（性・年代別）

(数値：%)

	サンプル数	3つの法律すべてを知っている※2	差別解消法・障害者差別解消法	障害者差別解消法	障害者差別解消法	障害者差別解消法	障害者差別解消法	障害者差別解消法	障害者差別解消法	障害者差別解消法	3つの法律すべて知らない※2	「いづれかに回答がない」
全体	1,303	31.4	3.6	5.0	12.2	2.8	8.5	9.0	25.7	1.7		
性・年代別	女性計	747	29.9	2.7	5.5	12.0	3.1	7.6	9.4	28.4	1.5	
	18~29歳	72	26.4	2.8	6.9	12.5	6.9	2.8	16.7	25.0	-	
	30代	103	19.4	4.9	4.9	8.7	4.9	12.6	11.7	32.0	1.0	
	40代	132	25.0	2.3	3.0	13.6	3.8	11.4	7.6	33.3	-	
	50代	137	36.5	4.4	2.9	11.7	0.7	9.5	8.8	25.5	-	
	60代	134	32.1	-	9.7	14.9	3.0	5.2	6.7	28.4	-	
	70代	113	37.2	1.8	7.1	14.2	1.8	3.5	6.2	24.8	3.5	
	80歳以上	55	27.3	3.6	3.6	3.6	1.8	5.5	14.5	29.1	10.9	
	男性計	522	33.9	4.8	4.8	12.5	1.9	10.2	8.6	21.8	1.5	
	18~29歳	43	11.6	4.7	7.0	4.7	2.3	18.6	16.3	32.6	2.3	
	30代	57	29.8	1.8	5.3	15.8	1.8	10.5	15.8	19.3	-	
	40代	91	29.7	2.2	-	15.4	5.5	18.7	3.3	25.3	-	
	50代	100	32.0	9.0	5.0	13.0	-	10.0	5.0	26.0	-	
	60代	95	32.6	9.5	5.3	18.9	1.1	8.4	7.4	16.8	-	
70代	95	46.3	2.1	6.3	7.4	2.1	3.2	10.5	17.9	4.2		
80歳以上	40	50.0	-	7.5	5.0	-	2.5	10.0	17.5	7.5		

※1 [] = 全体の数値より+5ポイント、● = 全体の数値より+10ポイント
 ※2 認知 = 「知っている」 + 「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」

性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、男性70代以上では「3つの法律すべて認知している」が5割前後と高くなっている。

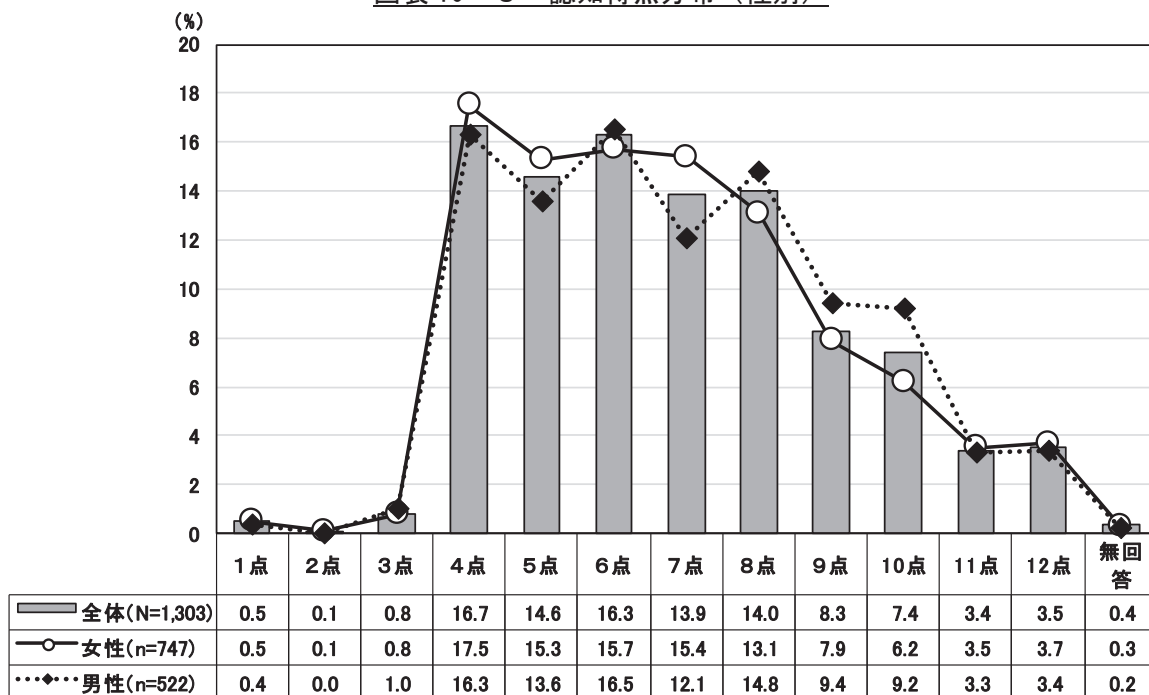
【人権に関する3つの法律及びパートナーシップ宣言制度の認知度分析】

人権に関する3つの法律に、パートナーシップ宣誓制度（P111 参照）を加えた4つについて、「知っている」に3点、「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」に2点、「知らない」に1点のスコアを与え、合計点数で認知度ランクを定義した。

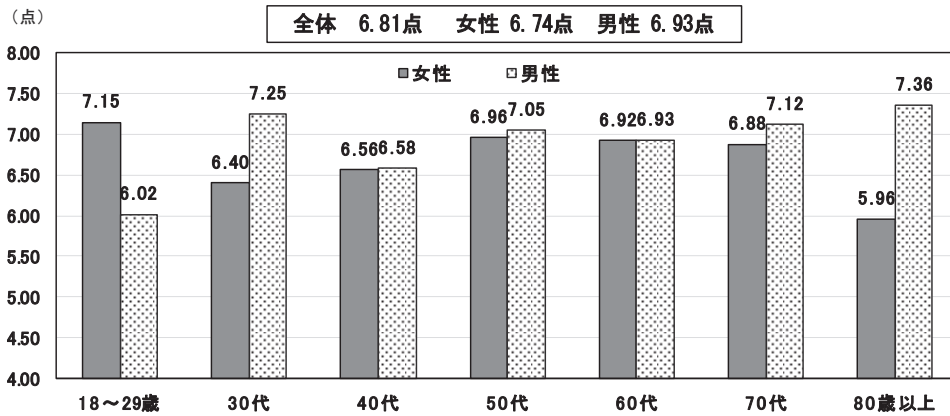
すべてに無回答の人は除き、いづれかに回答している人を対象として、合計得点を算出している。このため合計得点の最低は1点、最高は12点となっている。

認知度は、「1~5点」を低認知、「6~8点」を中認知、「9~12点」を高認知とした。

図表 10-3 認知得点分布（性別）

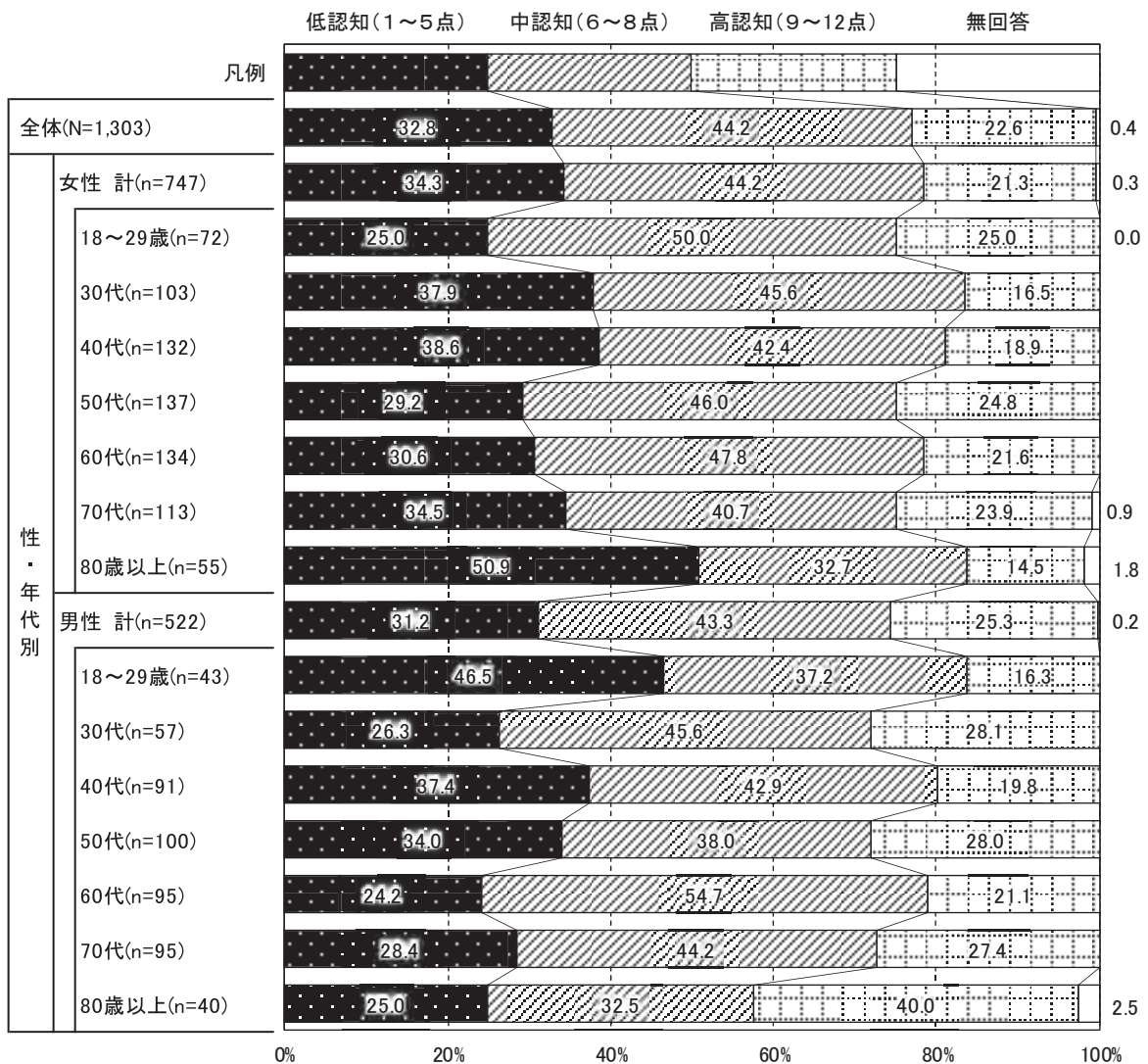


図表 10-4 平均認知得点分布 (性・年代別)



平均認知得点をみると、女性は6.74点、男性は6.93点と、男性の方が得点が高くなっている。
 性・年代別にみると、女性18~29歳7.15点、男性30代7.25点、50代7.05点、70代7.12点、80歳以上7.36点と7点を超えている。

図表 10-5 認知度ランク (性・年代別)

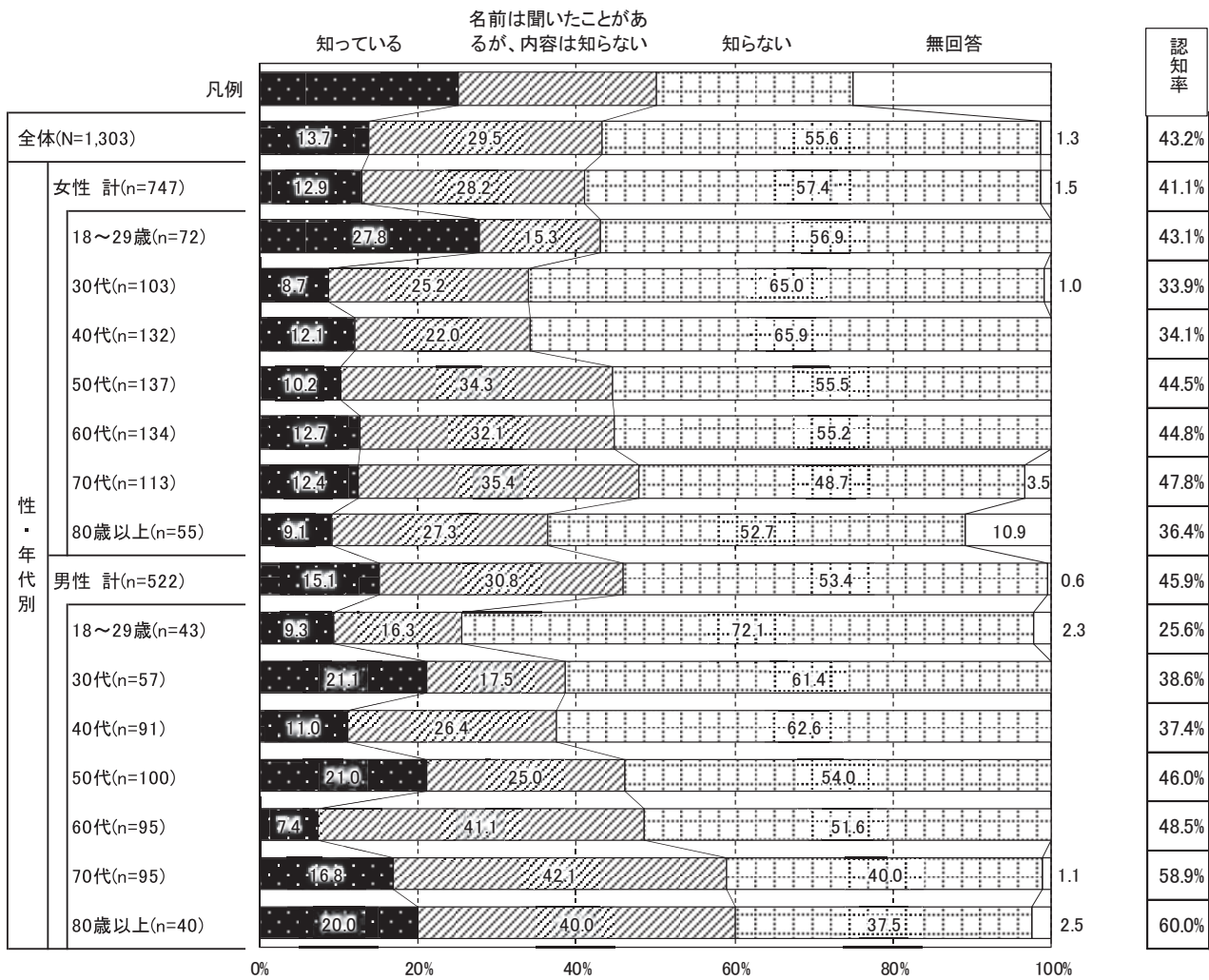


性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、低認知は性・年代で大きな差があるが、高認知は女性30代・40代、男性18~29歳・40代の1割台、男性80歳以上の4割台を除き、2割台となっており、性・年代による差は小さくなっている。

ア 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）

図表 10-6 障害者差別解消法の認知状況（性・年代別）



『認知率』＝「知っている」「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」を合計した割合

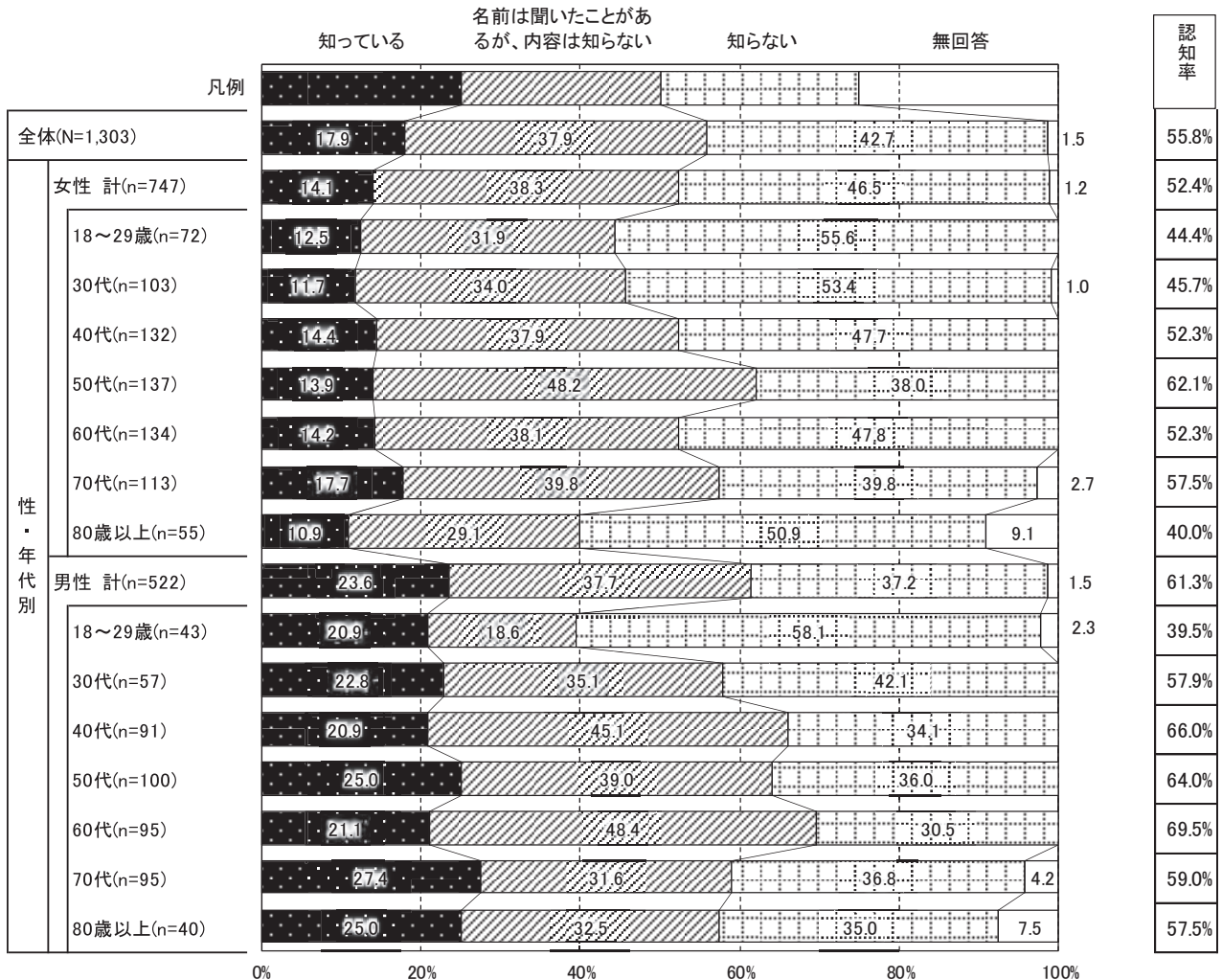
全体では、「知っている」が13.7%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が29.5%、これらを合わせた『認知率』は43.2%となっている。

性別にみると、女性では『認知率』が41.1%と男性（45.9%）よりも4.8ポイント低くなっている。

性・年代別にみると、女性30代・40代、男性40代以下で『認知率』が低く、特に男性18～29歳では25.6%と低くなっている。一方、女性18～29歳では「知っている」が27.8%と高くなっている。

イ 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律
(ヘイトスピーチ解消法)

図表 10-7 ヘイトスピーチ解消法の認知状況 (性・年代別)



『認知率』=「知っている」「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」を合計した割合

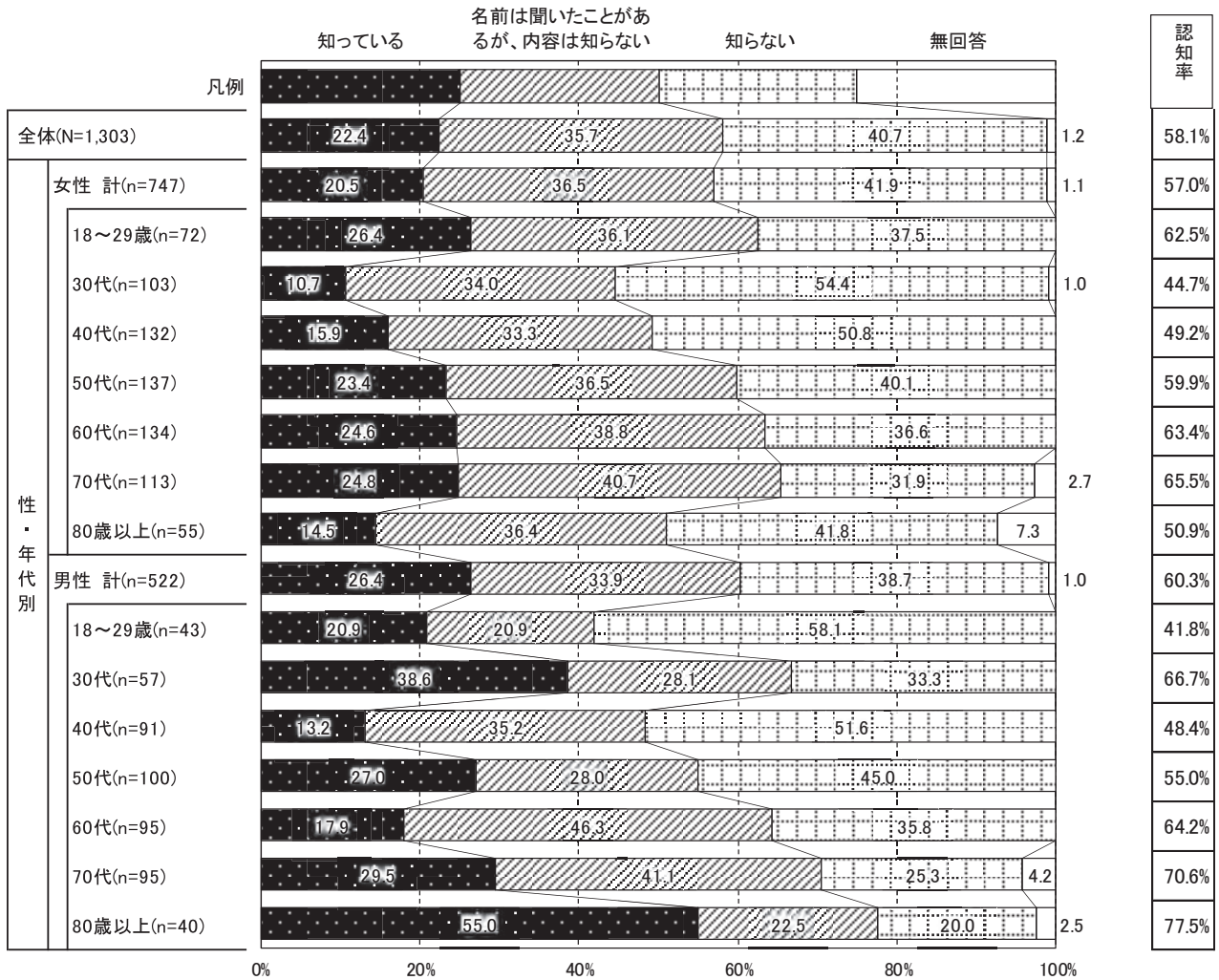
全体では、「知っている」が17.9%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が37.9%、これらを合わせた『認知率』は55.8%となっている。

性別にみると、女性では『認知率』が52.4%と男性(61.3%)よりも8.9ポイント低くなっている。

性・年代別にみると、男女の18~29歳と女性80歳以上の『認知率』が他の年代に比べて低くなっている。一方で、女性50代、男性40~60代では『認知率』が6割台と高くなっている。

ウ 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）

図表 10-8 部落差別解消推進法の認知状況（性・年代別）



『認知率』＝「知っている」「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」を合計した割合

全体では、「知っている」が22.4%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が35.7%、合計した『認知率』は58.1%となっている。

性別にみると、女性では『認知率』が57.0%と男性（60.3%）よりも3.3ポイント低くなっている。

性・年代別にみると、女性18～29歳では『認知率』が62.5%であるが、男性18～29歳では41.8%と低くなっている。また、女性30～40代、男性40代では『認知率』が4割台と低くなっている。